

MITSUBISHI

三菱Web地理情報システム構築パッケージ



PreSerV WebTcl API リファレンス (W マクロ)

Ver. 6.0

マニュアル

はじめに

はじめに

本書は、PreSerV WebTcl のウィンドウマクロ (W マクロ) で提供する API の仕様を説明します。

目次

1	APIリファレンスに関して	1
1.1	表記に関して	1
1.2	用語説明	3
2	ウィンドウマクロ (Wマクロ)	4
2.1	A~Cで始まるコマンド	7
2.1.1	w_arm_button	7
2.1.2	w_button	9
2.1.3	w_canvas	11
2.1.4	w_cascade	14
2.1.5	w_check_box	16
2.1.6	w_class	18
2.1.7	w_combo_add	20
2.1.8	w_combo_box	21
2.1.9	w_combo_count	24
2.1.10	w_combo_del	25
2.1.11	w_combo_item	26
2.1.12	w_combo_str	27
2.1.13	w_cursor	28
2.2	D~Gで始まるコマンド	30
2.2.1	w_def_size	30
2.2.2	w_destroy	32
2.2.3	w_dialog	33
2.2.4	w_event_handler	36
2.2.5	w_focus	39
2.2.6	w_frame	40
2.2.7	w_get_event	42
2.2.8	w_get_value	44
2.2.9	w_grab	45
2.3	L~Mで始まるコマンド	46
2.3.1	w_label	46
2.3.2	w_list_add	48
2.3.3	w_list_box	50

2.3.4	w_list_count.....	53
2.3.5	w_list_del.....	54
2.3.6	w_list_desel.....	56
2.3.7	w_list_item.....	57
2.3.8	w_list_sel.....	58
2.3.9	w_list_sel_item.....	60
2.3.10	w_list_set.....	61
2.3.11	w_map.....	63
2.3.12	w_menu_bar.....	64
2.3.13	w_message_box.....	66
2.3.14	w_move.....	68
2.4	P~Sで始まるコマンド.....	69
2.4.1	w_parent.....	69
2.4.2	w_pop_up.....	70
2.4.3	w_popup.....	71
2.4.4	w_popup_menu.....	72
2.4.5	w_pulldown_menu.....	74
2.4.6	w_radio_button.....	76
2.4.7	w_radio_group.....	78
2.4.8	w_resize.....	79
2.4.9	w_root_size.....	80
2.4.10	w_sense.....	81
2.4.11	w_separator.....	82
2.4.12	w_set_value.....	84
2.4.13	w_slider.....	85
2.5	T~Uで始まるコマンド.....	87
2.5.1	w_tag.....	87
2.5.2	w_text_box.....	88
2.5.3	w_text_clr_select.....	93
2.5.4	w_text_fence.....	94
2.5.5	w_text_ins_pos.....	95
2.5.6	w_text_replace.....	96
2.5.7	w_text_select.....	97
2.5.8	w_text_str.....	98
2.5.9	w_tooltip_color.....	99

2.5.10	w_tooltip_enable.....	101
2.5.11	w_tooltip_init.....	102
2.5.12	w_tooltip_set.....	103
2.5.13	w_top.....	104
2.5.14	w_trans_coords.....	107
2.5.15	w_unmap.....	108

1 API リファレンスに関して

1.1 表記に関して

(1) 索引の使い方に関して

API は接頭語 ("w_" など) を除いたアルファベット順に記載しています。
また 2 章の先頭には機能別索引の表を提示しています。

(2) API 更新のラベルに関して

3 章 API リファレンスでは、仕様変更を確認しやすいように、機能一覧表に以下のラベルを添付しています。

Ver. 3更新 Ver. 3 版で API 自体もしくは API のオプションを追加、削除、変更しました。

Ver. 4更新 Ver. 4 版で API 自体もしくは API のオプションを追加、削除、変更しました。

Ver. 5更新 V5 版で API 自体もしくは API のオプションを追加、変更しました。

WebTcl更新 WebTcl 版で API 自体もしくは API のオプションを追加、変更しました。

API の更新に関する詳細な履歴は、各 API のページ下部に記述されていますので、そちらを参照してください。

(3) API の表記に関して

API全般で共通の表記を表 1-1で説明します。

表 1-1 API 共通表記

表 記	表記の説明
<i>macro_string</i>	指定されたタイミング(イベント)で実行される Tcl コマンドの集合(マクロ)を示します。Tcl コマンド実行時は各種情報をシステム変数 (psv_size(w) など) から取得し、利用することが可能です。 例) w_top のサンプル中の -d オプション以下の {} で括られる部分の Tcl コマンドは、トップウィンドウクローズ時に実行されます。
<i>color_name</i>	カラー名称で定義される色の名称です。名称を指定すると、対応付けられた RGB 値を使用します。

(4) 引数の表について。

引数を説明する表中の設定、変更、参照の○は次の意味を表します。

設定：作成時に設定可

変更：作成後に w_set_value により変更可

参照：作成後に w_get_value により参照可

(5) 使用例の表記

「XXX. psv 参照」 : XXX. psv は本体付属のサンプルスクリプトファイルを示しています。

(6) 単位について

単位の説明が省略されている場合、高さ、幅、長さは画面表示の画素(ピクセル)単位です。また時間の単位はミリ秒です。

(7) 各コマンドの形式の表記について

各コマンドの形式部分および形式の説明での表記で [] で閉じられている部分は省略可能です。また、| で区切られている部分は | の左右どちらかが使用可能です。

例)

w_combo_str windowID [string] stringは省略可能です。

s on|off onもしくはoff使用可能です。

(8) フォント名について

マクロで指定可能なフォント名の一覧を次に示します。

m ではじまるフォントは明朝体、g ではじまるフォントはゴシック体です。

フォント名	幅(フォントの論理単位)	高さ(フォントの論理単位)
m4	4	8
m5	5	10
m6	6	12
m7	7	14
m8	8	16
m9	9	18
m10	10	20
m11	11	22
m12	12	24
m16	16	32
g4	4	8
g5	5	10
g6	6	12
g7	7	14
g8	8	16
g9	9	18
g10	10	20
g11	11	22
g12	12	24
g16	16	32

1.2 用語説明

WebTcl API リファレンス中の用語に関しては、別冊の「PreSerV WebTcl 用語集」を参照してください。

2 ウィンドウマクロ (W マクロ)

W マクロは、プログラムの GUI を作成するためのマクロです。ウィンドウ部品の生成、表示など、各種のウィンドウ操作を行います。

本章では W マクロを API のアルファベット順に説明します。API の機能的な分類は、以下の表に示す分類となります。

表 2-1 W マクロ機能索引

ウィンドウ／ダイアログの作成			
w_top	トップウィンドウの作成	Ver. 3更新 WebToI 更新	2. 5. 13
w_dialog	ダイアログの作成	Ver. 3更新	2. 2. 3
一般部品の作成			
w_text_box	テキストボックスの作成	Ver. 3更新 Ver. 5更新	2. 5. 2
w_button	ボタンの作成	Ver. 5更新	2. 1. 2
w_arm_button	アームボタンの作成	Ver. 5更新	2. 1. 1
w_check_box	チェックボックスの作成		2. 1. 5
w_radio_button	ラジオボタンの作成		2. 4. 6
w_combo_box	コンボボックスの作成	Ver. 3更新	2. 1. 8
w_list_box	リストボックスの作成	Ver. 3更新 Ver. 4更新	2. 3. 3
w_slider	スライダの作成		2. 4. 13
w_canvas	キャンバスの作成	Ver. 3更新	2. 1. 3
w_label	ラベルの作成	Ver. 3更新	2. 3. 1
w_separator	セパレータの作成		2. 4. 11
w_radio_group	ラジオボタンのグループ設定		2. 4. 7
w_frame	フレームの作成	Ver. 5更新	2. 2. 6
プルダウンメニューの作成			
w_menu_bar	メニューバーの作成		2. 3. 12
w_pull_down_menu	プルダウンメニューの作成		2. 4. 5
w_cascade	カスケードの作成		2. 1. 4
w_separator	セパレータの作成		2. 4. 11
ポップアップメニューの作成／表示			
w_popup	ポップアップの作成		2. 4. 3
w_popup_menu	ポップアップメニューの作成		2. 4. 4
w_cascade	カスケードの作成		2. 1. 4
w_separator	セパレータの作成		2. 4. 11

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

ポップアップメニューの作成／表示		
w_pop_up	ポップアップの表示	2. 4. 2
メッセージボックスの作成		
w_message_box	メッセージボックスの作成	2. 3. 13 <small>Ver. 3更新</small>
ウィンドウ部品の操作(共通)		
w_map	ウィンドウ部品の可視化	2. 3. 11
w_unmap	ウィンドウ部品の不可視化	2. 5. 15
w_destroy	ウィンドウ部品の削除	2. 2. 2
w_move	ウィンドウ部品の移動	2. 3. 14
w_resize	ウィンドウ部品のサイズ変更	2. 4. 8
w_set_value	ウィンドウ部品の属性設定	2. 4. 12
w_sense	ウィンドウ部品のセンシティブ設定	2. 4. 10
w_focus	ウィンドウ部品へのフォーカス設定	2. 2. 5 <small>Ver. 3更新</small>
w_get_value	ウィンドウ部品の属性取得	2. 2. 8
w_parent	親ウィンドウ ID の取得	2. 4. 1
w_tag	ウィンドウ部品のタグ名取得	2. 5. 1
w_class	ウィンドウクラスの取得	2. 1. 6
コンボボックスの操作		
w_combo_box	コンボボックスの作成	2. 1. 8 <small>Ver. 3更新</small>
w_combo_add	コンボボックスへの項目追加	2. 1. 7
w_combo_del	コンボボックス内の項目削除	2. 1. 10
w_combo_item	コンボボックスの項目取得	2. 1. 11
w_combo_str	コンボボックスの表示内容取得／設定	2. 1. 12
w_combo_count	コンボボックスの総項目数の取得	2. 1. 9
リストボックスの操作		
w_list_box	リストボックスの作成	2. 3. 3 <small>Ver. 3更新 Ver. 4更新</small>
w_list_add	リストボックスへの項目追加	2. 3. 2 <small>Ver. 3更新</small>
w_list_del	リストボックス内の項目削除	2. 3. 5
w_list_item	リストボックスの項目取得	2. 3. 7
w_list_sel	リストボックスの項目反転表示	2. 3. 8
w_list_desel	リストボックスの項目反転表示の解除	2. 3. 6
w_list_sel_item	リストボックスの反転表示項目の取得	2. 3. 9
w_list_set	リストボックスの項目表示位置変更	2. 3. 10
w_list_count	リストボックスの総項目数取得	2. 3. 4

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

テキストボックスの操作			
w_text_box	テキストボックスの作成	Ver. 3更新 Ver. 5更新	2.5.2
w_text_str	テキストボックス内の文字列取得／設定		2.5.8
w_text_ins_pos	テキストボックス内のカーソル位置取得／設定		2.5.5
w_text_replace	テキストボックス内の文字列置換		2.5.6
w_text_select	テキストボックス内の文字列反転表示		2.5.7
w_text_clr_select	テキストボックス内の文字列反転表示解除		2.5.3
w_text_fence	テキストボックスの仮名漢字変換モードの設定	Ver. 3更新	2.5.4
ツールチップ関連			
w_tooltip_color	ツールチップテキストの表示色の設定	Ver. 5更新	2.5.9
w_tooltip_enable	ツールチップテキストの使用設定	Ver. 5更新	2.5.10
w_tooltip_init	ツールチップテキストの初期化	Ver. 5更新	2.5.11
w_tooltip_set	ツールチップテキストの設定	Ver. 5更新	2.5.12
その他			
w_event_handler	キャンバスへのイベントマクロの設定	Ver. 3更新 Ver. 4更新 Ver. 5更新	2.2.4
w_get_event	キャンバスのイベント情報取得		2.2.7
w_def_size	ディスプレイ表示領域設定		2.2.1
w_root_size	ディスプレイの表示領域取得		2.4.9
w_trans_coords	ウィンドウ相対座標を絶対座標に変換		2.5.14
w_cursor	カーソルの形状変更	Ver. 3更新	2.1.13
w_grab	ウィンドウ部品のキャプチャ設定	Ver. 3更新	2.2.9

2.1 A~C で始まるコマンド

2.1.1 w_arm_button

アームボタンの作成

(1) 形式

w_arm_button *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-l] [-v] [-r] [-s]
[-i] [-c] [-g]

(2) 説明

w_arm_button マクロはアームボタンを作成します。

表 2-2 w_arm_button 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	アームボタンの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	アームボタンの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	アームボタンの幅を指定します。	○	○	○	—	50
-h height	アームボタンの高さを指定します。	○	○	○	—	50
-f color_val color_name	アームボタンの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	アームボタンの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-l label_string	アームボタンに表示するラベル文字列を指定します。	○	○	○	—	arm_button
-v font_name	アームボタンに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***. xbm) 、Windowsビットマップ (***. bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	○	○	—	なし
-s on off	アームボタンのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-i coord	-c で指定したマクロの実行間隔を指定します。	○	○	○	—	100
-c macro_string	アームボタンを押した時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし
-g bitmap_file_name	マウスボタンクリック時に表示するビットマップを指定します。	○	—	—	—	なし

(3) 戻り値

アームボタンのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_top

(5) 使用例

wsamp001. psv 参照 (以下画面例)



図 2-1 wsamp001. psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 5. 4

見栄え向上のため、クリック時にビットマップラベルを切り替えるオプションを追加しました (-g) 。

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

2.1.2 w_button

ボタンの作成

(1) 形式

w_button *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-l] [-v] [-r] [-s] [-c]
[-g]

(2) 説明

w_button マクロはボタンを作成します。

表 2-3 w_button 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	ボタンの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	ボタンの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	ボタンの幅を指定します。	○	○	○	—	50
-h height	ボタンの高さを指定します。	○	○	○	—	50
-f color_val color_name	ボタンの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例: R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例: red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	ボタンの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例: R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例: red)	○	○	○	—	&ffffff
-l label_string	ボタンに表示するラベル文字列を指定します。	○	○	○	—	button
-v font_name	ボタンに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***.xbm)、Windowsビットマップ (***.bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	○	○	—	なし

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-s on off	ボタンのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-c macro_string	ボタンを押した時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし
-g bitmap_file_name	マウスボタンクリック時に表示するビットマップを指定します。 X-Window ビットマップ (***.xbm) 、Windows ビットマップ (***.bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	—	—	—	なし

(3) 戻り値

ボタンのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_top

(5) 使用例

wsamp023.psv 参照 (以下画面例)

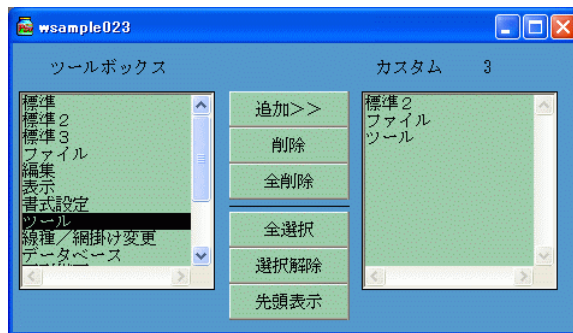


図 2-2 wsamp023.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 5. 4

見栄え向上のため、クリック時にビットマップラベルを切り替えるオプションを追加しました (-g)。

2.1.3 w_canvas

キャンバスの作成

(1) 形式

w_canvas *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-b] [-s] [-j] [-e]

(2) 説明

w_canvas マクロはキャンバスを作成します。キャンバスは、標準部品やグラフィックスマクロを使用して図形オブジェクトを表示するためのウィンドウ部品です。

表 2-4 w_canvas 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	キャンバスの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	キャンバスの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	キャンバスの幅を指定します。	○	○	○	—	100
-h height	キャンバスの高さを指定します。	○	○	○	—	100
-b color_val color_name	キャンバスの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-s on off	キャンバスのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<code>-j [hvalue] [vvalue]</code>	<p>キャンバスにスクロールバーを付加します。水平、垂直のいずれか一方を付けることも、水平、垂直の両方を付けることもできます。</p> <p><code>h</code>: 水平スクロールバーを付加し、幅 <i>value</i> の実ウィンドウ領域を生成します。</p> <p><code>v</code>: 垂直スクロールバーを付加し、高さ <i>value</i> の実ウィンドウ領域を生成します。</p> <p>キャンバス作成後の本引数の変更は、キャンバス作成時に本オプションを指定している時だけ可能です。</p> <p>また変更できるのは実ウィンドウ領域のサイズのみです。スクロールバーの有無を変更することはできません。</p> <p>本オプションを省略した時は、スクロールバーは付きません。</p>	○	○	○	—	なし
<code>-e</code>	<p>キャンバス枠を立体化します。</p> <p><code>w_get_value</code> を使用して値を取得すると、<code>-e</code> を指定した時は“on”、<code>-e</code> を指定していない時は“off”の文字列が返ります。</p>	○	—	○	—	off

(3) 戻り値

キャンバスのウィンドウ ID

(4) 関連項目

`w_dialog`, `w_top`

(5) 使用例

gsamp002. psv 参照 (以下画面例)

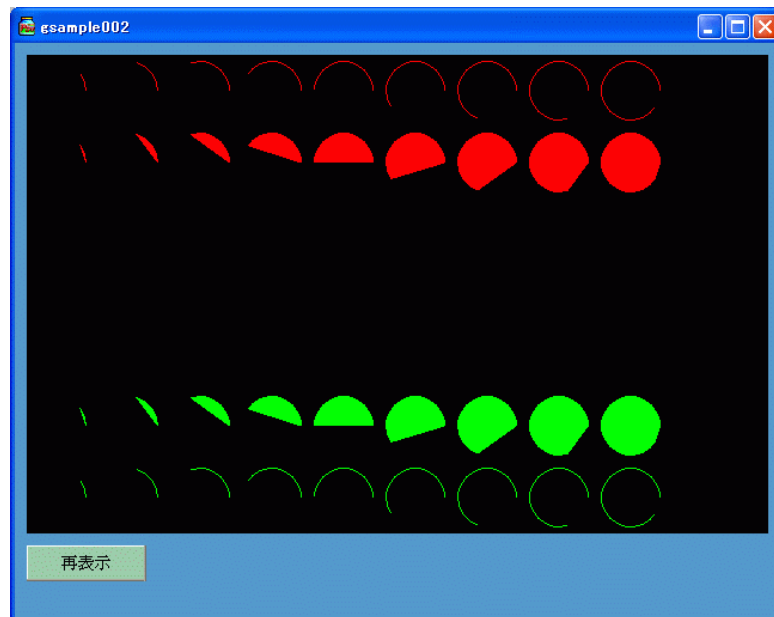


図 2-3 gsamp002. psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

立体的なキャンバス枠を指定可能になりました (-e)。

2.1.4 w_cascade

カスケードの作成

(1) 形式

w_cascade tag parent [-l] [-v] [-s] [-q]

(2) 説明

w_cascade マクロはカスケードを作成します。

カスケードは、メニューバー上に配置し、プルダウンメニューの見出しに使用します。また、プルダウンメニュー、ポップアップメニューのサブメニューの見出しとして使用します。

表 2-5 w_cascade 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウにするメニューバー、ポップアップ、またはカスケードのウィンドウ ID を指定します。 カスケードをサブメニューの見出しにする場合は、サブメニューを作成したいプルダウンメニューまたはポップアップメニューの、親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-l label_string	カスケードに表示するラベル文字列を指定します。 ショートカットは、任意の文字の前に&を付けて指定します。 (例：ファイル[F] → ファイル[&F])	○	○	○	—	cascade
-v font_name	カスケードに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-s on off	カスケードのセンシティブを指定します。 on：選択可能状態にします。 off：選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-q	ヘルプボタンを最右に配置します。	○	—	—	—	なし

(3) 戻り値

カスケードのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_menu_bar, w_popup, w_pulldown_menu

(5) 使用例

wsamp032. psv 参照 (以下画面例)

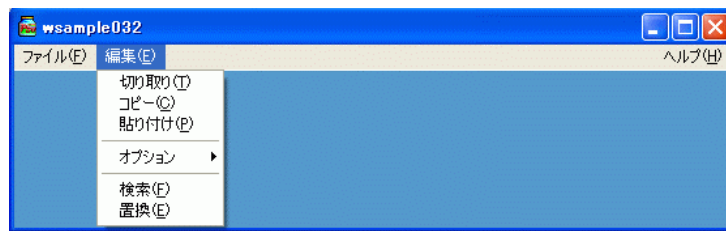


図 2-4 wsamp032. psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.1.5 w_check_box

チェックボックスの作成

(1) 形式

w_check_box *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-l] [-v] [-r] [-s] [-k]
[-c]

(2) 説明

w_check_box マクロはチェックボックスを作成します。

表 2-6 w_check_box 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	チェックボックスの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	チェックボックスの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	チェックボックスの幅を指定します。	○	○	○	—	50
-h height	チェックボックスの高さを指定します。	○	○	○	—	50
-f color_val color_name	チェックボックスの文字色を指定します。 color_val : RGB 値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &FF000A) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	チェックボックスの背景色を指定します。 color_val : RGB 値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-l label_string	チェックボックスに表示するラベル文字列を指定します。	○	○	○	—	check_box
-v font_name	チェックボックスに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***. xbm) 、Windowsビットマップ (***. bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	○	○	—	なし
-s on off	チェックボックスのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値) 。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-k on off	チェックボックスのチェックマークの表示／消去を指定します。 on : チェックマークを表示します。 off : チェックマークを消去します。	○	○	○	—	off
-c macro_string	チェックボックスを押した時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

(3) 戻り値

チェックボックスのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_top

(5) 使用例

wsamp005. psv 参照 (以下画面例)



図 2-5 wsamp005. psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.1.6 w_class

ウィンドウクラスの取得

(1) 形式

`w_class windowID`

(2) 説明

`w_class` マクロは指定ウィンドウ部品のクラス名を取得します。

各ウィンドウ部品のクラス名は次のとおりです。

- トップウィンドウ : `top`
- ダイアログ : `dialog`
- テキストボックス : `text_box`
- ラベル : `label`
- ボタン : `button`
- チェックボックス : `check_box`
- ラジオボタン : `radio_button`
- リストボックス : `list_box`
- コンボボックス : `combo_box`
- アームボタン : `arm_button`
- スライダ : `slider`
- セパレータ : `separator`
- メニューバー : `menu_bar`
- プルダウンメニュー : `pulldown_menu`
- カスケード : `cascade`
- ポップアップ : `popup`
- ポップアップメニュー : `popup_menu`
- フレーム : `frame`

① *windowID*

クラス名を取得したいウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) 戻り値

クラス名

(4) 関連項目

`w_button`, `w_canvas`, `w_cascade`, `w_check_box`, `w_combo_box`, `w_dialog`,
`w_frame`, `w_label`, `w_list_box`, `w_menu_bar`, `w_popup`, `w_popup_menu`,
`w_pulldown_menu`, `w_radio_button`, `w_separator`, `w_slider`, `w_text_box`, `w_top`

(5) 使用例

wsamp006.psv 参照 (以下画面例)

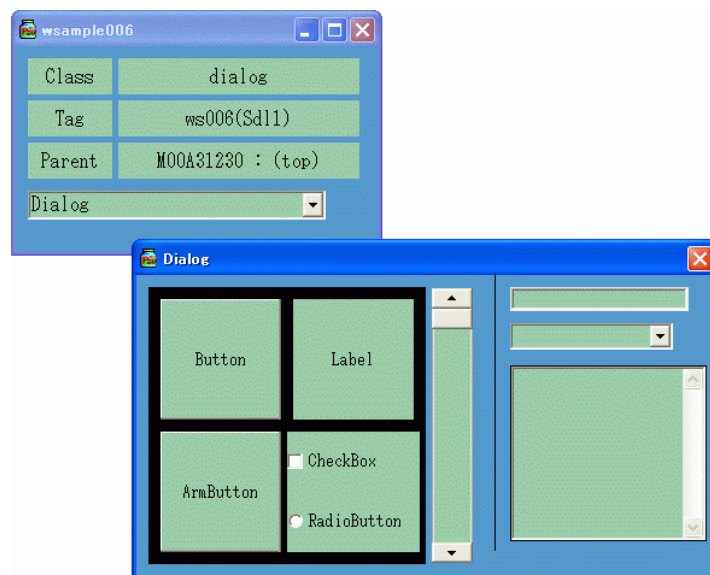


図 2-6 wsamp006.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.1.7 w_combo_add

コンボボックスへの項目追加

(1) 形式

`w_combo_add windowID item pos`

(2) 説明

w_combo_add マクロは、コンボボックスの指定位置に項目を 1 項目追加します。

① *windowID*

コンボボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *item*

追加する項目内容を指定します。

③ *pos*

項目を追加する位置を指定します。先頭項目の前に追加する時は 0、2 番目の項目の前に追加する時は 1 のように、番号で指定します。また -1 を指定すると、最終項目の後に追加します。項目数を超える数字を指定した場合、本マクロは無効となります。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_combo_box, w_combo_count, w_combo_del, w_combo_item, w_combo_str

(5) 使用例

wsamp009.psv 参照 (以下画面例)

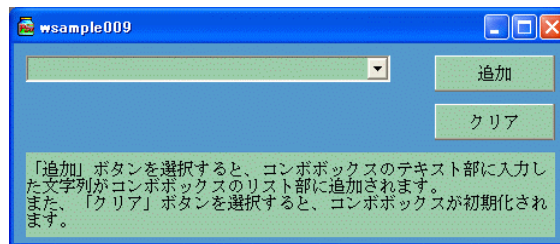


図 2-7 wsamp009.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.1.8 w_combo_box

コンボボックスの作成

(1) 形式

w_combo_box *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-v] [-i] [-t] [-s] [-d]
[-n]

(2) 説明

w_combo_box マクロはコンボボックスを作成します。

コンボボックスはテキストボックスとリストボックスを合わせたウィンドウ部品であり、テキストボックスとリストボックスを制御するマクロが使用できます。

表 2-7 w_combo_box 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	コンボボックスの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	コンボボックスの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	コンボボックスの幅を文字数（バイト数で指定）で指定します。	○	○	○	—	20
-h height	コンボボックスの高さ（リストの高さ）を行数で指定します。	○	○	○	—	5
-f color_val color_name	コンボボックスの文字色を指定します。 color_val : RGB値（例：R=255, G=0, B=10 → &ff000a） color_name : カラー名称（例：red）	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	コンボボックスの背景色を指定します。 color_val : RGB値（例：R=255, G=0, B=10 → &ff000a） color_name : カラー名称（例：red）	○	○	○	—	&ffffff
-v font_name	コンボボックスに表示する文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<code>-i item [,item...]</code>	コンボボックスのリストボックス領域に表示する項目を指定します。 項目間はカンマ (,) で区切ります。 カンマ (,) を文字として扱う場合は、 (¥ ¥ ,) で指定します。	○	—	—	—	なし
<code>-t string</code>	コンボボックスのテキストボックス領域に初期表示する文字列を指定します。	○	—	—	—	なし
<code>-s on off</code>	コンボボックスのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
<code>-d macro_string</code>	コンボボックスのリストボックス領域で項目を選択した時に実行するマクロを指定します。 次の 2 種類の変数が使用できます。 変数 <code>psv_combo(pos)</code> には、選択した項目の位置をセットしています。 変数 <code>psv_combo(item)</code> には、選択した項目の文字列をセットしています。 指定したマクロ (関数も含む) 内で「 <code>w_combo_str</code> 」を実行した場合、リアルタイムでコンボボックスの表示内容は取得できません。(コンボボックスでアイテムを指定する直前の内容を取得します。)	○	○	○	—	なし
<code>-n r w</code>	コンボボックスのテキストボックス領域の入力モードを指定します。 <code>r</code> : 表示のみ可能です。文字は入力できません。 <code>w</code> : 文字の表示、入力とも可能です (既定値)。	○	○	○	—	w

(3) 戻り値

コンボボックスのウィンドウ ID

(4) 関連項目

`w_canvas`, `w_combo_add`, `w_combo_count`, `w_combo_del`, `w_combo_item`,
`w_combo_str`, `w_dialog`, `w_top`

(5) 使用例

wsamp009.psv参照 (画面例は2. 1. 7の画面参照)

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

テキストボックス領域でのエンターキー入力時に実行するマクロ（アクティベイトマクロ）の指定を削除しました（-c）。

テキストボックス領域の内容変更時に実行するマクロ（モディファイマクロ）の指定を削除しました（-e）。

入力モードの指定（-n）が可能になりました。

項目間文字のカンマ（,）を文字として指定することが可能になりました。

2.1.9 w_combo_count

コンボボックスの総項目数の取得

(1) **形式**

w_combo_count *windowID*

(2) **説明**

w_combo_count マクロは、指定コンボボックス内に存在する総項目数を取得します。

① *windowID*

コンボボックスのウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

コンボボックス内に存在する総項目数

(4) **関連項目**

w_combo_add, w_combo_box, w_combo_del, w_combo_item

(5) **使用例**

wsamp009.psv参照 (画面例は2.1.7の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.1.10 w_combo_del

コンボボックス内の項目削除

(1) **形式**

```
w_combo_del -i windowID item
```

```
w_combo_del -p windowID pos
```

(2) **説明**

w_combo_del マクロは、コンボボックス内の指定項目、または指定位置の項目を削除します。本マクロ実行後、削除した項目以降の項目は、1 行上に詰めて表示されます。また、コンボボックスのテキストボックス領域に表示中の項目を削除した場合、コンボボックスのテキストボックス領域の表示は削除されます。

① -i

項目を指定して、コンボボックスの項目を削除します。第3引数には削除する項目を指定します。

② -p

項目の位置を指定して、コンボボックスの項目を削除します。第3引数には削除する項目の位置を指定します。

③ *windowID*

コンボボックスのウィンドウ ID を指定します。

④ *item*

削除する項目を指定します。

一致する項目がコンボボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑤ *pos*

削除する項目の位置を指定します。

先頭項目から、順に0、1、2の番号で指定します。また-1を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がコンボボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

w_combo_add, w_combo_box, w_combo_count, w_combo_item, w_combo_str

(5) **使用例**

wsamp009.psv参照(画面例は2.1.7の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.1.11 w_combo_item

コンボボックスの項目取得

(1) **形式**

w_combo_item *windowID* [*pos* ...]

(2) **説明**

w_combo_itemマクロは、コンボボックス内の*pos*で指定した位置の項目を取得します。また、*pos*を省略すると、コンボボックス内の全項目を取得できます。

① *windowID*

コンボボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *pos*

取得したい項目の位置を指定します。

先頭項目から順に 0、1、2 の番号で指定します。また-1 を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がコンボボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) **戻り値**

取得項目 ... (リスト形式)

(4) **関連項目**

w_combo_add w_combo_box w_combo_count w_combo_del w_combo_str

(5) **使用例**

wsamp009.psv参照 (画面例は2.1.7の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.1.12 w_combo_str

コンボボックスの表示内容取得／設定

(1) **形式**

w_combo_str *windowID* [*string*]

(2) **説明**

w_combo_str マクロは、コンボボックスの表示内容を取得します。

また、引数に文字列を設定すると、指定文字列をコンボボックスに設定できます。

引数に指定する文字列を空指定 (" ") にすると、コンボボックスの表示内容をクリアできます。

「w_combo_box」の「-d」オプションで指定したマクロ（関数も含む）で「w_combo_str」を実行した場合、リアルタイムでコンボボックスの表示内容は取得できません。（コンボボックスでアイテムを指定する直前の内容を取得します。）

① *windowID*

コンボボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *string*

設定する文字列をダブルクォーテーション (") で囲んで指定します。

(3) **戻り値**

コンボボックスの内容

(4) **関連項目**

w_combo_add, w_combo_box, w_combo_count, w_combo_del, w_combo_item

(5) **使用例**

wsamp009.psv参照 (画面例は2.1.7の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.1.13 w_cursor

カーソルの形状変更

(1) 形式

w_cursor *cursorNo*

(2) 説明

w_cursor マクロはカーソルの形状を変更します。

① *cursorNo*

変更するカーソル番号 (0~12) を指定します。

0 : システムに依存

1 : バックグラウンドで作業中

2 : 標準の選択

3 : 領域選択

4 : テキスト選択

5 : 作業領域外

6 : 移動

7 : 斜めに拡大／縮小 2

8 : 上下に拡大／縮小

9 : 斜めに拡大／縮小 1

10 : 左右に拡大／縮小

11 : 代替選択

12 : 待ち状態

ただし、カーソル番号に対応して表示するマウスポインタの形状は、実行するマシンのマウスポインタの設定により異なります。

確認するには、コントロールパネルからマウスのプロパティを表示し、ポインタタブを選択してください。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

なし

(5) 使用例

wsamp057.psv 参照 (以下画面例)

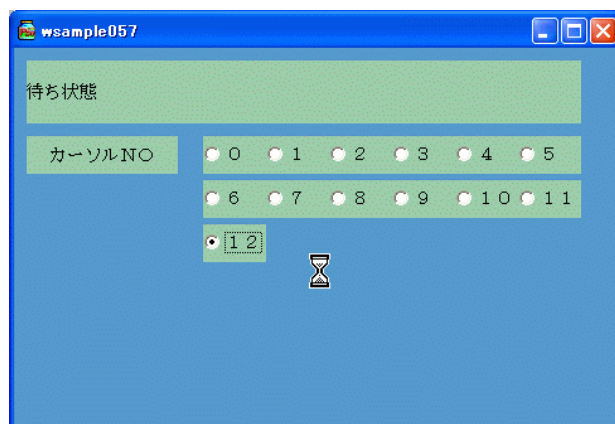


図 2-8 wsamp057.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

Ver. 3.0 で新規に追加したマクロです。

2.2 D~G で始まるコマンド

2.2.1 w_def_size

ディスプレイの表示領域設定

(1) 形式

w_def_size *width height* on|off

(2) 説明

w_def_sizeマクロはディスプレイ表示領域サイズを変更します。

本マクロでプロポーショナルモードをonにすることにより、ノートPCなどの解像度の低いディスプレイでも、指定*width*、*height*の領域を表示できます。ただし、この場合表示精度が若干低くなる恐れがあります。

① *width*

ディスプレイ表示領域の幅を指定します。

② *height*

ディスプレイ表示領域の高さを指定します。

③ on|off

プロポーショナルモードの切換えを指定します。

on : プロポーショナルモードを on 状態にします。

off : プロポーショナルモードを off 状態にします。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_root_size

(5) 使用例

wsamp043. psv 参照 (以下画面例)

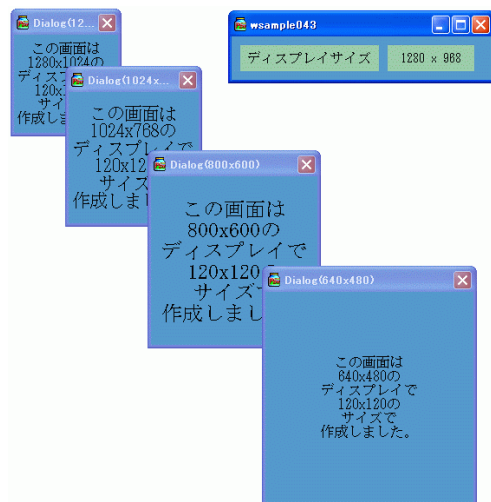


図 2-9 wsamp043. psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.2.2 w_destroy

ウィンドウ部品の削除

(1) 形式

`w_destroy windowID [windowID ...]`

(2) 説明

`w_destroy` マクロは、ウィンドウマクロで生成したウィンドウ部品と、そのすべての子ウィンドウを削除します。

※ 親ウィンドウの `w_destroy` 実行後、子ウィンドウの `w_destroy` を実行すると、子ウィンドウは開放済みのため、エラーになります。

① `windowID [windowID ...]`

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_move`, `w_resize`

(5) 使用例

`wsamp055.psv` 参照 (以下画面例)

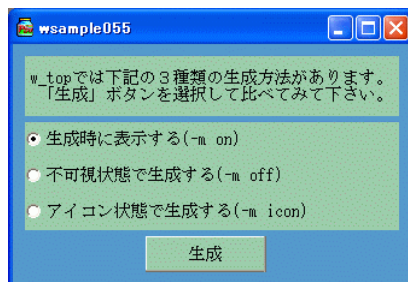


図 2-10 `wsamp055.psv` 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.2.3 w_dialog

ダイアログの作成

(1) 形式

w_dialog *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-t] [-b] [-m] [-d] [-e] [-z]

(2) 説明

w_dialog マクロはダイアログを作成します。

ダイアログのスタイルにはモーダルダイアログとモードレスダイアログがあります。モーダルダイアログでは、ダイアログに応答するまで次の処理に進むことを禁止します。モードレスダイアログにはそのような制約はありません。

表 2-8 w_dialog 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウにするトップウィンドウ、ダイアログのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-x coord	ダイアログの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	-1
-y coord	ダイアログの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	-1
-w width	ダイアログの幅を指定します。	○	○	○	—	200
-h height	ダイアログの高さを指定します。	○	○	○	—	100
-t title_string	ダイアログのタイトル文字列を指定します。	○	○	○	—	dialog
-b color_val color_name	ダイアログの背景色を指定します。 color_val : RGB 値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-m modeless modal	ダイアログのスタイルを指定します。 modeless : モードレスダイアログを作成します。 modal : モーダルダイアログを作成します。	○	○	○	—	modeless
-d macro_string	ダイアログウィンドウの左上のウィンドウ制御メニュー内から、close (終了) を選択した時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-e macro_string	<p>ダイアログウィンドウの画面サイズを変更した時に実行するマクロを指定します。</p> <p>次の3種類の変数が使用できます。</p> <p>変数 psv_size(w) と psv_size(h) は、サイズ変更後のウィンドウの幅と高さをセットしています。</p> <p>変数 psv_size(type) は、サイズ変更のタイプにより次の文字列をセットしています。ダイアログウィンドウは最大化ボタンと最小化ボタンが無い場合、常に restored となります。</p> <p>maximized : ウィンドウが最大化された。</p> <p>minimized : ウィンドウが最小化された。</p> <p>restored : ウィンドウのサイズを変更したが、最大化と最小化のどちらでもない。</p>	○	○	○	—	なし
-z styleVal	<p>ダイアログウィンドウのスタイルを次の8ビットの整数で指定します。</p> <p>サイズ変更境界線 (ビット0)</p> <p>サイズ変更境界線を持つウィンドウとするかどうかを指定します。</p> <p>0 : サイズ変更境界線を持たない</p> <p>1 : サイズ変更境界線を持つ</p>	○	○	○	—	1

(3) 戻り値

ダイアログのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_top

(5) 使用例

wsamp016.psv 参照 (以下画面例)

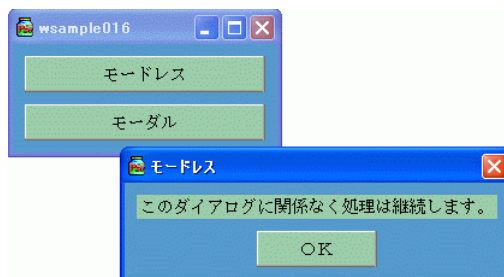


図 2-11 wsamp016.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

制御メニューによるダイアログのクローズ時に実行するマクロ（デストロイマクロ）の指定を追加しました（-d）。

ダイアログの画面サイズ変更時に実行するマクロの指定を追加しました（-e）。

ダイアログのスタイルを設定するマクロの指定を追加しました（-z）。

2.2.4 w_event_handler

キャンバスへのイベントマクロの設定

(1) 形式

`w_event_handler windowID [-p] [-r] [-m] [-e] [-d] [-w]`

(2) 説明

`w_event_handler` マクロは、キャンバスでの各種イベント発生時に実行するマクロを指定します。

① `windowID`

イベント検知を行いたいキャンバスのウィンドウ ID を指定します。

② `-p macro_string`

マウスボタンを押した時に実行するマクロを指定します。

③ `-r macro_string`

マウスボタンを放した時に実行するマクロを指定します。

④ `-m macro_string`

マウスポインタが移動した時に実行するマクロを指定します。

⑤ `-e macro_string`

`w_grab` マクロで、キャンバスに対してキャプチャを設定した場合、マウスがキャンバスより出た時に実行するマクロを指定します。

⑥ `-d macro_string`

マウスボタンをダブルクリックした時に実行するマクロを指定します。

⑦ `-w macro_string`

ホイールマウスで、ホイールボタンを動かした時に実行するマクロを指定します。ホイールの移動方向は、PreSerV システム変数 `$psv_event(b)` に格納します。手前に回した場合は“r”を格納し、奥に回した場合は“l”を格納します（下図参照）。

注) ホイールイベントはキャンバスにフォーカスが当たっていないと発生しません。`w_focus` を使用してホイール検出操作時はキャンバスにフォーカスが当たるように処理してください。



図 2-12 ホイールの方向と変数の対応

- (3) 戻り値
なし
- (4) 関連項目
w_get_event, w_grab
- (5) 使用例
wsamp037.psv 参照 (以下画面例)

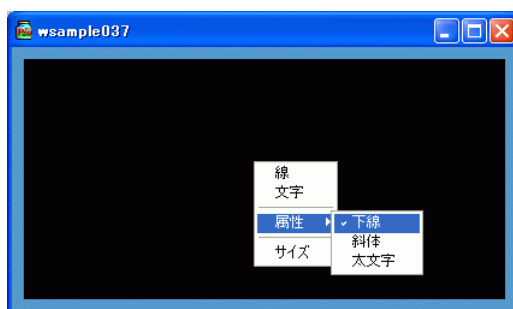


図 2-13 wsamp037.psv 実行画面

wsamp062.psv 参照 (以下画面例)

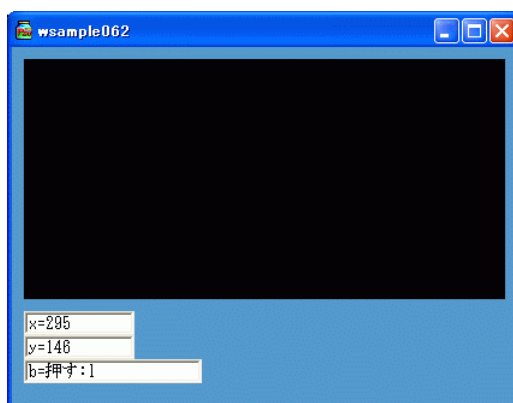


図 2-14 wsamp062.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

w_grab マクロ用のイベントマクロを追加しました (-e)。

② Ver. 4.0

ダブルクリック用のイベントマクロを追加しました (-d)。

③ Ver. 5.4

ホイール用のイベントマクロを追加しました (-w)。

2.2.5 w_focus

ウィンドウ部品へのフォーカス設定

(1) **形式**

w_focus [*windowID*]

(2) **説明**

w_focus マクロは、ウィンドウ ID に対応するウィンドウ部品にフォーカスをセットします。

またウィンドウ ID の指定を省略すると、現在フォーカスがセットされているウィンドウ部品のウィンドウ ID を取得できます。

① *windowID*

フォーカスをセットする時、ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

ウィンドウ ID を指定した場合は、戻り値は返しません。

ウィンドウ ID を省略した場合は、現在フォーカスがセットされているウィンドウ部品のウィンドウ ID を返します。

(4) **関連項目**

なし

(5) **使用例**

wsamp018.psv 参照 (以下画面例)

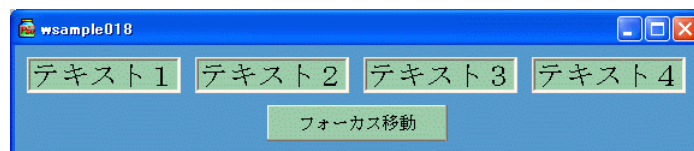


図 2-15 wsamp018.psv 実行画面

(6) **更新履歴**

① Ver. 3.0

windowID の省略により、現在フォーカスをセットしているウィンドウ部品のウィンドウ ID を取得可能になりました。

2.2.6 w_frame

フレームの作成

(1) 形式

w_frame tag parent [-x] [-y] [-w] [-h] [-v] [-l] [-f] [-b]

(2) 説明

w_frame マクロはフレーム枠を表示するウィンドウを作成します。このフレームには、子ウィンドウの管理機能はありません。

表 2-9 w_frame 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	フレームの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	フレームの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	フレームの幅を指定します。	○	○	○	—	10
-h height	フレームの高さを指定します。	○	○	○	—	10
-v font_name	キャプションに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-l label_string	フレームのキャプション文字列を指定します。	○	○	○	—	なし
-f color_val color_name	キャプションの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	キャプションの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff

(3) 戻り値

フレームのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_top w_dialog

(5) 使用例

wsamp100. psv 参照 (以下画面例)

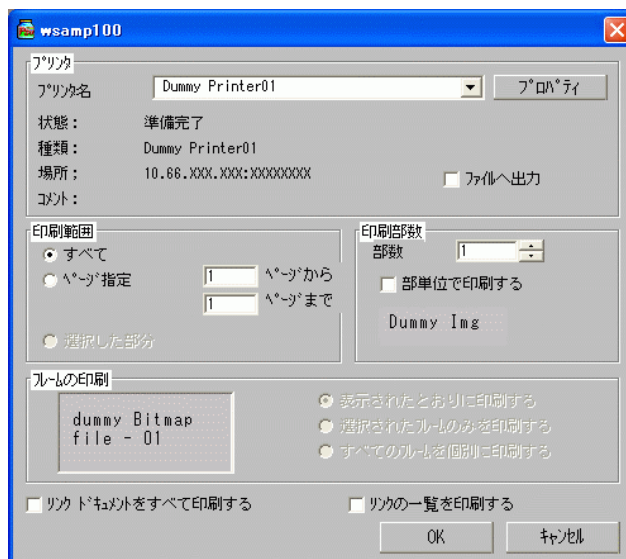


図 2-16 wsamp100.psv 実行画面

(6) 更新履歷

- ① Ver. 5.0

w_frame マクロを追加しました。

- ② Ver. 5.2

w_frame マクロに“-f”・“-b”オプションを追加しました。

2.2.7 w_get_event

キャンバスのイベント情報取得

(1) **形式**

w_get_event

(2) **説明**

w_get_event マクロは、キャンバスで発生したイベントの情報を取得し、変数にセットします。w_event_handler マクロ（キャンバスへのイベントマクロ設定）と組み合わせて使用します。

本マクロを実行すると、イベント発生時のマウス X 座標を変数 **psv_event(x)**、マウス Y 座標を変数 **psv_event(y)**、クリックしたマウスボタン名を変数 **psv_event(b)** に格納します。

ボタン名を以下に示します。

r : 右ボタン

m : 中ボタン（3つボタンマウスのみ）

l : 左ボタン

変数 psv_event を、本マクロ実行時に上書きします。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

w_event_handler

(5) 使用例

wsamp037. psv 参照 (以下画面例)

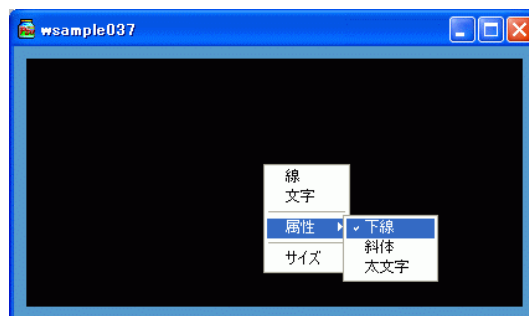


図 2-17 wsamp037. psv 実行画面

wsamp062. psv 参照 (以下画面例)

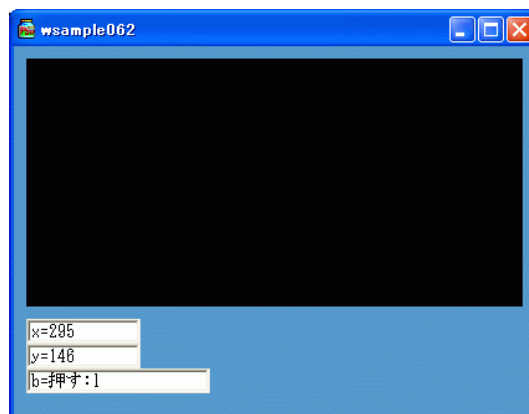


図 2-18 wsamp062. psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.2.8 w_get_value

ウィンドウ部品の属性取得

(1) 形式

`w_get_value windowID resource_type [resource_type ...]`

(2) 説明

`w_get_value` マクロは、ウィンドウマクロで作成したウィンドウ部品の、リソースタイプに一致する内容を取得します。

指定したウィンドウ部品に存在しないリソースタイプを指定した場合、本マクロの処理は無効となります。

なお、値を取得可能なリソースの種類は、ウィンドウ部品によって異なります。各ウィンドウ部品の作成マクロの説明を参照してください。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

② *resource_type [resource_type ...]*

ウィンドウ部品でサポートしているリソースタイプ (ハイフン+英字 1 文字。-x、-y など) を指定します。

(3) 戻り値

指定リソースの内容

(4) 関連項目

`w_set_value`

(5) 使用例

wsamp020.psv 参照 (以下画面例)

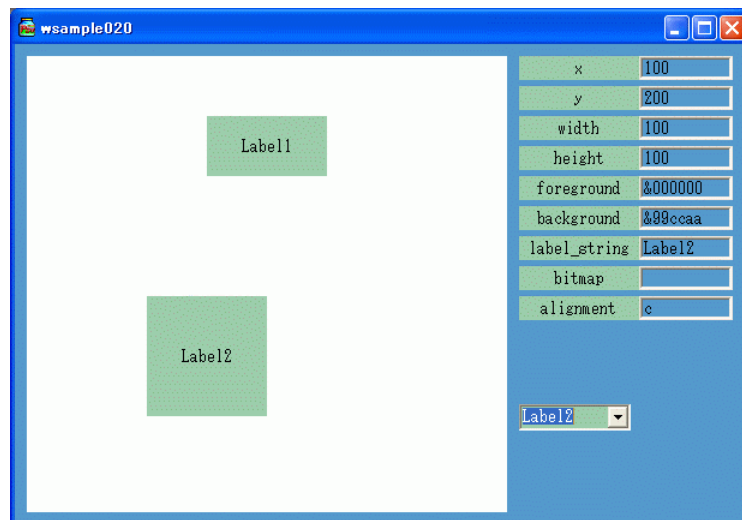


図 2-19 wsamp020.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.2.9 w_grab

ウィンドウ部品のキャプチャ設定

(1) 形式

w_grab *windowID* | off

(2) 説明

w_grabマクロは、ウィンドウマクロで生成したウィンドウ部品の キャプチャを設定します。 キャプチャを設定した場合、そのウィンドウ部品以外で起こったイベント（マウスの移動やクリック）も、キャプチャ指定したウィンドウに送ります。キャプチャの解除にはoffを指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_event_handler

(5) 使用例

wsamp062. psv 参照（以下画面例）

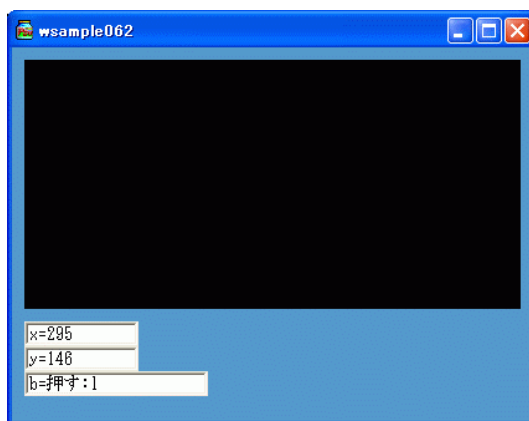


図 2-20 wsamp062. psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

Ver. 3.0 で追加したマクロです。

2.3 L~M で始まるコマンド

2.3.1 w_label

ラベルの作成

(1) 形式

w_label tag parent [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-l] [-v] [-r] [-a] [-o]
[-e]

(2) 説明

w_label マクロはラベルを作成します。

表 2-10 w_label 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	ラベルの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	ラベルの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	ラベルの幅を指定します。	○	○	○	—	50
-h height	ラベルの高さを指定します。	○	○	○	—	50
-f color_val color_name	ラベルの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	ラベルの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-l label_string	ラベルに表示するラベル文字列を指定します。	○	○	○	—	label
-v font_name	ラベルに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***. xbm) 、Windowsビットマップ (***. bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	なし
-a l c r	ラベル文字列の表示位置を指定します。 l : ラベル文字列を左詰めで表示します。 c : ラベル文字列を中心に表示します。 r : ラベル文字列を右詰めで表示します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	c
-o frame_val	ラベル文字列の枠の太さを指定します。 枠は黒の実線で表示します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	なし
-e	ラベル文字列の枠を立体化します。 w_get_value を使用して値を取得すると、-e を指定した時は“on”、-e を指定していない時は“off”の文字列が返ります。	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	—	off

(3) 戻り値

ラベルのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_top

(5) 使用例

wsamp021.psv 参照 (以下画面例)

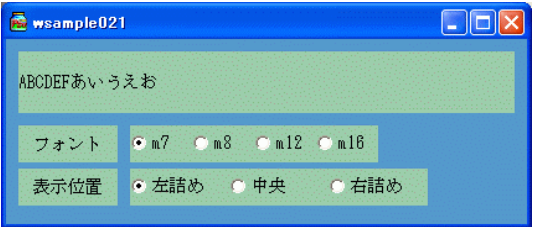


図 2-21 wsamp021.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

枠線が指定可能になりました (-o)。

立体的なラベル文字列の枠が指定可能になりました (-e)。

2.3.2 w_list_add

リストボックスへの項目追加

(1) 形式

`w_list_add windowID item pos [-f] [-b] [-r]`

(2) 説明

`w_list_add` マクロは、リストボックスの指定位置に項目を 1 項目追加します。

① *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *item*

追加する項目を指定します。

改行を含む項目は複数段表示となります。

③ *pos*

項目を追加する位置を指定します。

先頭項目の前に追加する時は 0、2 番目の項目の前に追加する時は 1 のように、番号で指定します。また -1 を指定すると最終項目の後に追加します。項目数を超える数字を指定した場合、本マクロは無効となります。

④ `-f color_val|color_name`

項目の文字の色を指定します。省略した場合はリストボックスの文字色となります。

⑤ `-b color_val|color_name`

項目の背景色の色を指定します。省略した場合はリストボックスの文字色となります。

⑥ `-r color_val|color_name`

選択時の項目の反転色を指定します。省略した場合はリストボックスの文字色となります。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_list_box`, `w_list_count`, `w_list_del`, `w_list_desel`, `w_list_item`, `w_list_sel`,
`w_list_sel_item`, `w_list_set`

(5) 使用例

wsamp023.psv 参照 (以下画面例)

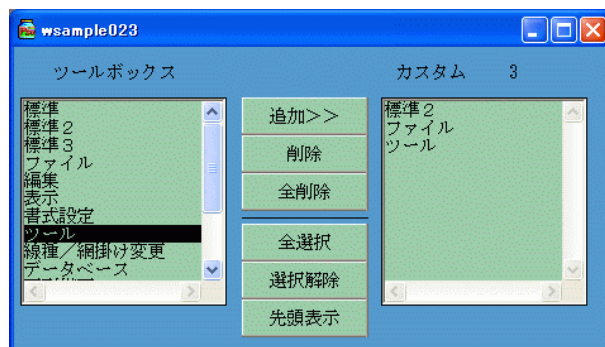


図 2-22 wsamp023.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

文字色 (-f)、背景色 (-b)、反転色 (-r) の指定ができるようになりました。
改行を含む項目の複数段表示ができるようになりました。

2.3.3 w_list_box

リストボックスの作成

(1) 形式

w_list_box *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-v] [-i] [-m] [-s] [-j]
[-c] [-d]

(2) 説明

w_list_box マクロはリストボックスを作成します。

表 2-11 w_list_box 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	リストボックスの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	リストボックスの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	リストボックスの幅を文字数（バイト数で指定）で指定します。	○	○	○	—	20
-h height	リストボックスの高さを行数で指定します。	○	○	○	—	5
-f color_val color_name	リストボックスの文字色を指定します。 color_val : RGB値（例：R=255, G=0, B=10 → &ff000a） color_name : カラー名称（例：red）	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	リストボックスの背景色を指定します。 color_val : RGB値（例：R=255, G=0, B=10 → &ff000a） color_name : カラー名称（例：red）	○	○	○	—	&ffffff
-v font_name	リストボックスに表示する文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-i item [, item...]	リストボックスに表示する項目を指定します。 項目間はカンマ（,）で区切ります。 改行を含む項目は複数段表示です。	○	—	—	—	なし

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-m s m e	リストボックスの項目の選択スタイルを指定します。 s : 項目を 1 つだけ選択できます (既定値)。 m : 項目を複数選択できます。 e : SHIFT キーとマウスの組み合わせを使って、項目を複数選択できます。	○	—	○	—	s
-s on off	リストボックスのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-j hv	リストボックスにスクロールバーを付加します。 h : 水平スクロールバーを付加します。 v : 垂直スクロールバーを付加します (既定値)。 垂直スクロールバーは必須であり、本引数の指定を省略すると垂直スクロールバーを付加します (「-j v」指定と同じ)。 また、「-j h」「-j hv」を指定すると、いずれも垂直、水平の両方のスクロールバーを付加します。	○	—	○	—	v
-c macro_string	リストボックスの項目をダブルクリックした時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし
-d macro_string	リストボックスの項目を選択した時に実行するマクロを指定します。 次の 3 種類の変数が使用できます。 変数 psv_list(pos) には、選択した項目の位置をセットします。 変数 psv_list(item) には、選択した項目の文字列をセットします。 変数 psv_list(modk) には、制御キー (Shift、Ctrl キー) 押下情報がセットします。 1 : 「Shift」キー押下時 2 : 「Ctrl」キー押下時 3 : 「Shift」+「Ctrl」キー押下時	○	○	○	—	なし

(3) **戻り値**

リストボックスのウィンドウ ID

(4) **関連項目**

w_canvas, w_dialog, w_list_add, w_list_count, w_list_del, w_list_desel,
w_list_item, w_list_sel, w_list_sel_item, w_list_set, w_top

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2.3.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

① Ver. 3.0

SHIFT キーとマウス、または特殊なキーの組み合わせを使用した、項目の複数選択が指定可能になりました (-m e)。

改行を含む項目の複数段表示ができるようになりました。

② Ver. 4.0

リストボックスの項目を選択した時にセットする、変数に psv_list(modk) 「制御キー (Shift、Ctrl キー) 押下情報」を追加しました (Ver4_0_5)。

2.3.4 w_list_count

リストボックスの総項目数取得

(1) **形式**

w_list_count *windowID*

(2) **説明**

w_list_count マクロは、リストボックス内に存在する総項目数を取得します。

① *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

リストボックス内に存在する総項目数

(4) **関連項目**

w_list_add, w_list_box, w_list_del, w_list_desel, w_list_item, w_list_sel,
w_list_sel_item, w_list_set

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2.3.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.3.5 w_list_del

リストボックス内の項目削除

(1) 形式

```
w_list_del -i windowID item  
w_list_del -p windowID pos  
w_list_del -a windowID
```

(2) 説明

w_list_del マクロは、リストボックス内の項目を削除します。

削除方法には、指定項目に一致する項目の削除、指定位置の項目の削除、リストボックス内の全項目削除の3種類があります。

本マクロ実行後、削除項目以降の項目を、上に詰めて表示します。

① -i

項目を指定してリストボックスから項目を削除します。第3引数には削除する項目を指定します。

② -p

位置を指定してリストボックスから項目を削除します。第3引数には削除する項目の位置を指定します。

③ -a

リストボックス内の全項目を削除します。

④ *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

⑤ *item*

削除する項目を指定します。

一致する項目がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑥ *pos*

削除する項目の位置を指定します。

先頭項目から、順に 0、1、2 の番号で指定します。また-1 を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_list_add, w_list_box, w_list_count, w_list_desel, w_list_item, w_list_sel, w_list_sel_item, w_list_set

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2. 3. 2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.3.6 w_list_dese1

リストボックスの項目反転表示の解除

(1) **形式**

```
w_list_dese1 -i windowID item
```

```
w_list_dese1 -p windowID pos
```

(2) **説明**

w_list_dese1マクロは、リストボックス内の指定項目、または指定位置の項目の反転表示（選択状態）を解除します。本マクロを複数回実行することで、複数項目の反転表示を解除できます。ただし、リストボックスの項目の選択スタイルが「s」の場合、*item*および*pos*の指定内容にかかわらず反転表示は解除します。

① -i

項目を指定して、リストボックスの項目の反転表示を解除します。第3引数には解除する項目を指定します。

② -p

項目の位置を指定して、リストボックスの項目の反転表示を解除します。第3引数には解除する項目の位置を指定します。

③ *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

④ *item*

反転表示を解除する項目を指定します。

一致する項目がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑤ *pos*

反転表示を解除する項目の位置を指定します。

先頭項目から、順に0、1、2の番号で指定します。また-1を指定すると最終項目を指定します。指定位置がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

```
w_list_add, w_list_box, w_list_count, w_list_del, w_list_item, w_list_sel,  
w_list_sel_item, w_list_set
```

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照（画面例は2.3.2の画面参照）

(6) **更新履歴**

なし

2.3.7 w_list_item

リストボックスの項目取得

(1) **形式**

`w_list_item windowID [pos ...]`

(2) **説明**

`w_list_item`マクロは、リストボックス内の`pos`で指定した位置の項目を取得します。また、`pos`を省略すると、リストボックス内の全項目を取得できます。

① *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *pos*

取得したい項目の位置を指定します。

先頭項目から順に 0、1、2 の番号で指定します。また-1 を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) **戻り値**

取得項目 ... (リスト形式)

(4) **関連項目**

`w_list_add`, `w_list_box`, `w_list_count`, `w_list_del`, `w_list_desel`, `w_list_sel`,
`w_list_sel_item`, `w_list_set`

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2.3.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.3.8 w_list_sel

リストボックスの項目反転表示

(1) 形式

```
w_list_sel -i windowID item
```

```
w_list_sel -p windowID pos
```

(2) 説明

w_list_sel マクロは、リストボックス内の指定項目、または指定位置の項目を反転表示（選択状態）します。本マクロを複数回実行することで、複数項目を反転表示にできます。 リストボックスの項目の選択スタイルが「s」で、本マクロを実行した場合は選択中の項目は反転表示を解除して指定した項目を反転表示します。

① -i

項目を指定して、リストボックスの項目を反転表示します。 第3引数には反転表示する項目を指定します。

② -p

位置を指定して、リストボックスの項目を反転表示します。 第3引数には反転表示する項目の位置を指定します。

③ *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

④ *item*

反転表示する項目を指定します。

一致する項目がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑤ *pos*

反転表示する項目の位置を指定します。

先頭項目から、順に 0、1、2 の番号で指定します。また-1 を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_list_add, w_list_box, w_list_count, w_list_del, w_list_desel, w_list_item, w_list_sel_item, w_list_set

(5) 使用例

wsamp023.psv参照 (画面例は2.3.2の画面参照)

- (6) 更新履歴
なし

2.3.9 w_list_sel_item

リストボックスの反転表示項目の取得

(1) **形式**

w_list_sel_item *windowID*

(2) **説明**

w_list_sel_item マクロは、リストボックス内の反転表示中（選択状態）の項目を取得します。

① *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

取得項目 ... （リスト形式）

(4) **関連項目**

w_list_add, w_list_box, w_list_count, w_list_del, w_list_desel, w_list_item,
w_list_sel, w_list_set

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2.3.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.3.10 w_list_set

リストボックスの項目表示位置変更

(1) 形式

```
w_list_set -i windowID item t|b
```

```
w_list_set -p windowID pos t|b
```

(2) 説明

w_list_set マクロは、リストボックス内の指定項目、または指定位置の項目を、リストボックスの可視領域の先頭位置または最終位置に表示します。ただし、水平スクロールバー付きのリストボックスの場合、リストボックスの表示領域の最終位置が水平スクロールバーにより隠れます。

① -i

表示する項目を、項目で指定します。第3引数には項目を指定します。

② -p

表示する項目を、項目の位置で指定します。第3引数には項目の位置を指定します。

③ *windowID*

リストボックスのウィンドウ ID を指定します。

④ *item*

項目を指定します。一致する項目がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑤ *pos*

項目の位置を指定します。

先頭項目から、順に 0、1、2 の番号で指定します。また-1 を指定すると最終項目を指定します。

指定位置がリストボックス内に存在しない場合、本マクロの処理は無効となります。

⑥ t|b

項目をリストボックスの可視領域の先頭位置、最終位置のどちらに表示するかを指定します。

t : 先頭位置に表示します。

b : 最終位置に表示します。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

w_list_add, w_list_box, w_list_count, w_list_del, w_list_desel, w_list_item,
w_list_sel, w_list_sel_item

(5) **使用例**

wsamp023.psv参照 (画面例は2. 3. 2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.3.11 w_map

ウィンドウ部品の可視化

(1) 形式

`w_map windowID [windowID ...]`

(2) 説明

w_map マクロは、ウィンドウマクロで作成したウィンドウ部品を可視状態にします。
親ウィンドウを可視化すると、そのすべての子ウィンドウも可視化されます。

① `windowID [windowID ...]`

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_unmap

(5) 使用例

wsamp031.psv 参照 (以下画面例)

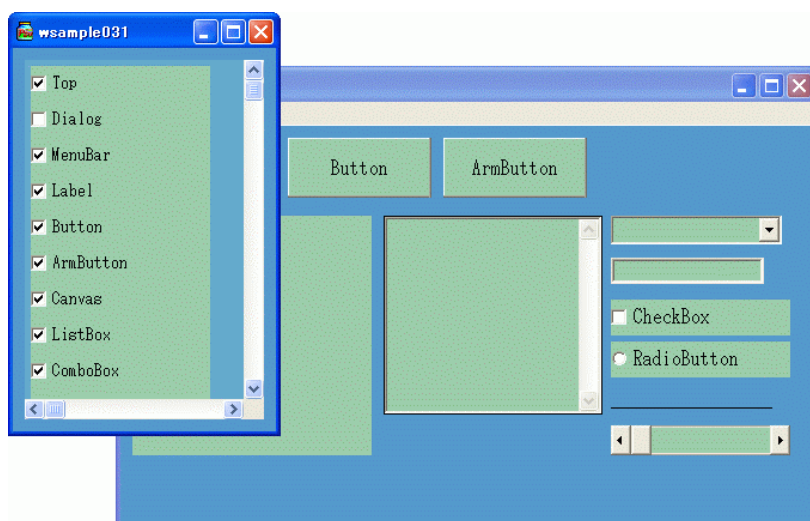


図 2-23 wsamp031.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.3.12 w_menu_bar

メニューバーの作成

(1) 形式

w_menu_bar tag parent [-f] [-b]

(2) 説明

w_menu_bar マクロはメニューバーを作成します。メニューバーはトップウィンドウ及びダイアログに1つだけ生成できます。メニューバーの表示位置は、親となるトップウィンドウ及びダイアログの左上を配置位置として、メニューバーの幅は親ウィンドウの幅に一致します。メニューバーにカスケードを設定していない場合はメニューバーの表示がされません。

表 2-12 w_menu_bar 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウにするトップウィンドウまたはダイアログのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-f color_val color_name	メニューバーの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &FF000A) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	メニューバーの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &FF000A) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff

(3) 戻り値

メニューバーのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_cascade, w_dialog, w_pulldown_menu, w_top

(5) 使用例

wsamp032.psv 参照 (以下画面例)

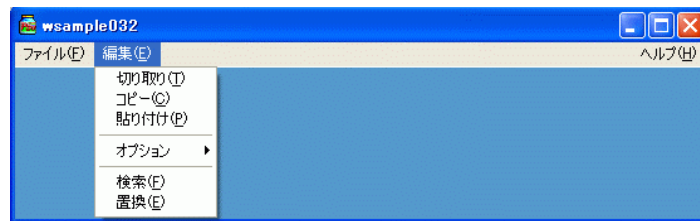


図 2-24 wsamp032.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.3.13 w_message_box

メッセージボックスの作成

(1) 形式

w_message_box tag parent [-t] [-l] [-m] [-e] [-v] [-f] [-b] [-d]

(2) 説明

w_message_box マクロはメッセージボックスを作成します。メッセージボックスは応答するまで次の処理に進むことができません。メッセージボックスの表示位置は画面の中央です。

注) w_message_box 表示中は他の処理をブロックする一時的なウィンドウであるため、変更・参照には対応していません。

表 2-13 w_message_box 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-t title_string	メッセージボックスのタイトル文字列を指定します。	○	—	—	—	message_box
-l msg_string	メッセージボックスに表示する文字列を指定します。	○	—	—	—	message
-m info warning critical	メッセージボックスのスタイルを指定します。 info : 問い合わせメッセージ (既定値) warning : 警告エラーのメッセージ critical : 致命的エラーのメッセージ	○	—	—	—	info
-e 0 OC RC YN YNC	メッセージボックスに表示するボタンの種類を指定します。 0 : [OK] OC : [OK] [キャンセル] RC : [再試行] [キャンセル] YN : [はい] [いいえ] YNC : [はい] [いいえ] [キャンセル]	○	—	—	—	OC
-v font_name	メッセージボックスに表示する文字列のフォント名を指定します。	○	—	—	—	m7
-f color_val color_name	メッセージボックスの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	—	—	—	&000000

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-b color_val color_name	メッセージボックスの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	—	—	—	&ffffff
-d default_button	メッセージボックス表示時にフォーカスの当たる デフォルトのボタンを指定します。省略した場合および間違った 指定 (ボタンの種類が YN で 0 を指定した時など) は左のボタンとなります。 0 : [OK] C : [キャンセル] R : [再試行] Y : [はい] N : [いいえ]	○	—	—	—	0

(3) 戻り値

押されたボタンの種類 (“ 0 | R | C | Y | N ”のいずれか 1 文字)

(4) 関連項目

w_top, w_dialog

(5) 使用例

wsamp033.psv 参照 (以下画面例)



図 2-25 wsamp033.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

Ver. 3.0 で新規に追加したマクロです。

2.3.14 w_move

ウィンドウ部品の移動

(1) 形式

`w_move windowID x y`

(2) 説明

w_move マクロは、ウィンドウ ID に対応するウィンドウ部品を指定座標に移動します。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

② *x*

ウィンドウ部品の左上の移動先 X 座標を指定します。

③ *y*

ウィンドウ部品の左上の移動先 Y 座標を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_destroy, w_resize

(5) 使用例

wsamp034. psv 参照 (以下画面例)

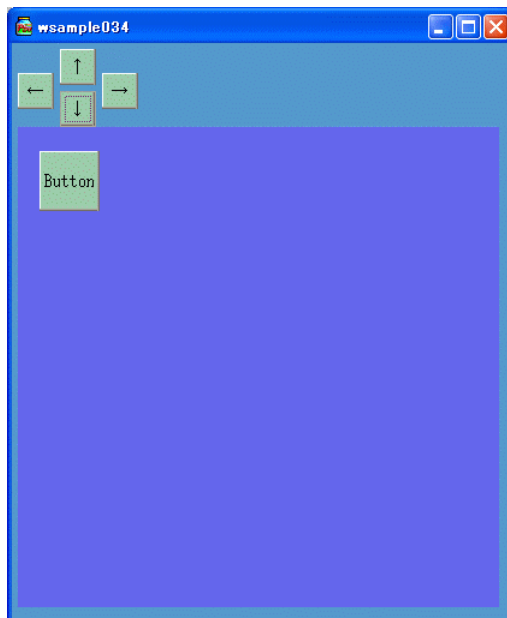


図 2-26 wsamp034. psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4 P~S で始まるコマンド

2.4.1 w_parent

親ウィンドウ ID の取得

(1) **形式**

w_parent *windowID*

(2) **説明**

w_parent マクロは、指定ウィンドウ部品の親ウィンドウのウィンドウ ID を取得します。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

親ウィンドウのウィンドウ ID

(4) **関連項目**

w_button, w_canvas, w_cascade, w_check_box, w_combo_box, w_dialog, w_label,
w_list_box, w_menu_bar, w_message_box, w_popup, w_popup_menu,
w_pull_down_menu, w_radio_button, w_separator, w_slider, w_text_box, w_top

(5) **使用例**

wsamp006.psv参照 (画面例は2.1.6の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.4.2 w_pop_up

ポップアップの表示

(1) 形式

w_pop_up *windowID* [-r] *x y*

(2) 説明

w_pop_up マクロは、ウィンドウ ID で指定したポップアップを指定座標に表示します。

① *windowID*

ポップアップのウィンドウ ID を指定します。

② -r

座標を絶対座標で指定します。指定しないと、親ウィンドウ左上からの相対座標になります。

③ *x*

ポップアップの左上の X 座標を指定します。

④ *y*

ポップアップの左上の Y 座標を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_popup, w_trans_coords

(5) 使用例

wsamp037.psv 参照 (以下画面例)

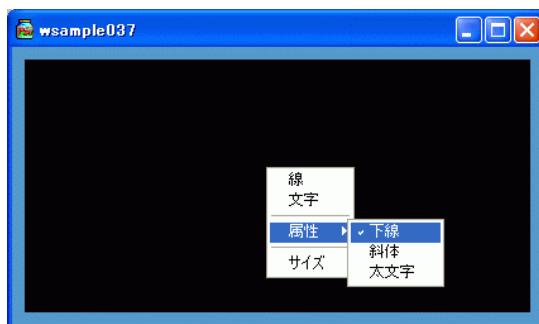


図 2-27 wsamp037.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.3 w_popup

ポップアップの作成

(1) 形式

w_popup *tag parent* [-f] [-b]

(2) 説明

w_popup マクロはポップアップを作成します。ポップアップは、ポップアップメニューの親ウィンドウとなるウィンドウ部品です。ポップアップ単独では表示されません。

表 2-14 w_popup 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウにするトップウィンドウまたはダイアログのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-f <i>color_val</i> <i>color_name</i>	ポップアップの文字色を指定します。 <i>color_val</i> : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) <i>color_name</i> : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b <i>color_val</i> <i>color_name</i>	ポップアップの背景色を指定します。 <i>color_val</i> : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) <i>color_name</i> : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff

(3) 戻り値

ポップアップのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_cascade, w_pop_up, w_popup_menu

(5) 使用例

wsamp037.psv参照 (画面例は2.4.2の画面参照)

(6) 更新履歴

なし

2.4.4 w_popup_menu

ポップアップメニューの作成

(1) 形式

w_popup_menu *tag parent* [-l] [-v] [-r] [-s] [-k] [-c]

(2) 説明

w_popup_menu マクロはポップアップメニューを作成します。w_popup_menu マクロを1回実行すると、ポップアップメニューが1項目作成できます。なお、ポップアップメニューに仕切り線を入れる場合は、w_separator を使用します。項目の並び順は本マクロの実行順となります。本マクロ実行毎に項目はポップアップメニューの下に追加されます。

表 2-15 w_popup_menu

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウにするトップウィンドウまたはダイアログのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-l <i>label_string</i>	ポップアップメニューに表示するラベル文字列を指定します。 ショートカットは、任意の文字の前に&を付けて指定します（例：ファイル[F] → ファイル[&F]）。	○	○	○	—	popup_menu
-v <i>font_name</i>	ポップアップメニューに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-r <i>bitmap_file_name</i>	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ（***. xbm）、Windowsビットマップ（***. bmp）が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	○	○	—	なし
-s on off	ポップアップメニューのセンシティブを指定します。 on：選択可能状態にします（既定値）。 off：選択不可状態にします。	○	○	○	—	on

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-k on off none	<p>on : チェックマークを表示します。</p> <p>off : チェックマークを消去します。</p> <p>none : チェックマークなしのポップアップメニューを生成します（既定値）。</p> <p>なお、ポップアップメニュー作成後の本引数の変更は、作成時に本オプションで on または off を指定している時だけ可能です。また行えるのは on と off の切換えだけです。none に変更することはできません。</p>	○	○	○	—	none
-c macro_string	メニュー選択時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

(3) 戻り値

ポップアップメニューのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_cascade, w_popup

(5) 使用例

wsamp037. psv参照 (画面例は2. 4. 2の画面参照)

(6) 更新履歴

なし

2.4.5 w_pulldown_menu

プルダウンメニューの作成

(1) 形式

```
w_pulldown_menu tag parent [-l] [-v] [-s] [-k] [-r] [-c]
```

(2) 説明

w_pulldown_menu マクロはプルダウンメニューを作成します。w_pulldown_menu マクロを 1 回実行すると、プルダウンメニューが 1 項目作成できます。なお、プルダウンメニューに仕切り線を入れる場合は、w_separator を使用します。項目の並び順は本マクロの実行順となります。本マクロ実行毎に項目はプルダウンメニューの下に追加されます。

表 2-16 w_pulldown_menu 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウにするカスケードのウィンドウ ID を指定します。	○	—	—	○	なし
-l label_string	カスケードに表示するラベル文字列を指定します。 ショートカットは、任意の文字の前に&を付けて指定します（例：ファイル[F] → ファイル[&F]）。	○	○	○	—	pulldown_menu
-v font_name	プルダウンメニューに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7
-s on off	プルダウンメニューのセンシティブを指定します。 on：選択可能状態にします。 off：選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-k on off none	プルダウンメニューのチェックマークの表示/消去/なしを指定します。 on：チェックマークを表示します。 off：チェックマークを消去します。 none：チェックマーク無しのプルダウンメニューを生成します。 なお、プルダウンメニュー作成後の本引数の変更は、作成時に本オプションで on または off を指定している時だけ可能です。また行えるのは on と off の切換えだけです。none に変更することはできません。	○	○	○	—	none

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***. xbm) 、Windowsビットマップ (***. bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	○	○	○	—	なし
-c macro_string	メニュー選択時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

(3) 戻り値

プルダウンメニューのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_cascade, w_menu_bar

(5) 使用例

wsamp032. psv参照 (画面例は2. 1. 4の画面参照)

(6) 更新履歴

なし

2.4.6 w_radio_button

ラジオボタンの作成

(1) 形式

w_radio_button *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-l] [-v] [-r] [-s]
[-k] [-c]

(2) 説明

w_radio_button マクロはラジオボタンを作成します。ラジオボタンのグループ化は w_radio_group マクロで行います。グループ化することにより、チェックマークの切換え制御が自動的に行われます。

表 2-17 w_radio_button 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	ラジオボタンの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	ラジオボタンの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	ラジオボタンの幅を指定します。	○	○	○	—	50
-h height	ラジオボタンの高さを指定します。	○	○	○	—	50
-f color_val color_name	ラジオボタンの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	ラジオボタンの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-l label_string	ラジオボタンに表示するラベル文字列を指定します。	○	○	○	—	radio_button
-v font_name	ラジオボタンに表示するラベル文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-r bitmap_file_name	ラベル文字列の代わりにbitmap_file_nameで指定するビットマップを表示します。 X-Windowビットマップ (***. xbm) 、Windowsビットマップ (***. bmp) が指定できます。 ラベル文字列とビットマップの両方を指定した時は、ビットマップの指定を優先します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	なし
-s on off	ラジオボタンのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします。 off : 選択不可状態にします。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	on
-k on off	ラジオボタンのチェックマークの表示/消去を指定します。 on : チェックマークを表示します。 off : チェックマークを消去します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	off
-c macro_string	ラジオボタンを押した時に実行するマクロを指定します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	—	なし

(3) 戻り値

ラジオボタンのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_radio_group, w_top

(5) 使用例

wsamp021.psv 参照 (以下画面例)



図 2-28 wsamp021.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.7 w_radio_group

ラジオボタンのグループ設定

(1) 形式

w_radio_group [-a] *windowID* [*windowID* ...]

(2) 説明

w_radio_group マクロは、w_radio_button マクロで生成したラジオボタンのウィンドウ ID を引数に指定して、ラジオボタンのグループを作成します。

グループ化することによりチェックマークの切換え制御が自動的に行えます。また、グループ内のあるラジオボタンのチェックマークを on にすると、グループ内のそれまでチェックマーク on だったラジオボタンは、自動的にチェックマーク off に切り換わります。

本マクロの引数に指定するラジオボタンのウィンドウ ID は、同一のウィンドウ部品を親として作成したものに限りします。

また、本マクロでグループ化を行う対象は、ラジオボタンのみです。他のウィンドウ部品が指定された場合は無効となります。

① -a

指定のウィンドウが属するグループ内の、チェックマークがonのラジオボタンを取得します。

最初の*windowID*は選択状態になります。

② *windowID* [*windowID* ...]

グループ化するラジオボタンのウィンドウIDを指定します。

最初の*windowID*は選択状態になります。

(3) 戻り値

-a 指定の場合は、ラジオボタンのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_radio_button

(5) 使用例

wsamp021.psv参照 (画面例は2.4.6の画面参照)

(6) 更新履歴

なし

2.4.8 w_resize

ウィンドウ部品のサイズ変更

(1) 形式

`w_resize windowID width height`

(2) 説明

w_resize マクロは、ウィンドウ ID に対応するウィンドウ部品を指定サイズに変更します。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

② *width*

ウィンドウ部品の変更後の幅を指定します。

③ *height*

ウィンドウ部品の変更後の高さを指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_destroy, w_move

(5) 使用例

wsamp042.psv 参照 (以下画面例)

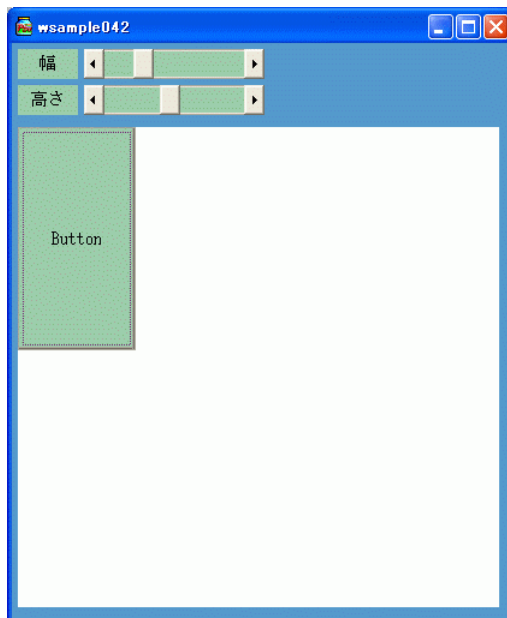


図 2-29 wsamp042.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.9 w_root_size

ディスプレイの表示領域

(1) **形式**

w_root_size

(2) **説明**

w_root_size マクロはディスプレイ表示領域サイズを取得します。

(3) **戻り値**

ディスプレイの幅、高さ

(4) **関連項目**

w_def_size

(5) **使用例**

wsamp043.psv参照 (画面例は2.2.1の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.4.10 w_sense

ウィンドウ部品のセンシティブ設定

(1) 形式

`w_sense on|off windowID [windowID ...]`

(2) 説明

w_sense マクロは、ウィンドウマクロで生成したウィンドウ部品の操作可否を設定します。ウィンドウ部品を操作不可状態に設定した場合、ウィンドウ部品はグレー表示されます。

① on|off

on : ウィンドウ部品を操作可能状態に設定します。

off : ウィンドウ部品を操作不可状態に設定します。

② windowID [windowID ...]

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_get_value, w_set_value

(5) 使用例

wsamp044.psv 参照 (以下画面例)



図 2-30 wsamp044.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.11 w_separator

セパレータの作成

(1) 形式

w_separator *tag parent* [-x] [-y] [-f] [-o] [-l]

(2) 説明

w_separator マクロはセパレータを作成します。

表 2-18 w_separator 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	セパレータの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	セパレータの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-f color_val color_name	セパレータの表示色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-o h v	セパレータの配置方向を指定します。 h : セパレータを水平に配置します (既定値)。 v : セパレータを垂直に配置します。	○	—	○	—	h
-l length	セパレータの長さを指定します。	○	○	○	—	100

(3) 戻り値

セパレータのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_cascade, w_dialog, w_popup, w_top

(5) 使用例

wsamp045.psv 参照 (以下画面例)



	出荷数	売り上げ
A店	230	23,000
B店	40	4,000
C店	120	12,000
合計	390	39,000

図 2-31 wsamp045.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.12 w_set_value

ウィンドウ部品の属性設定

(1) 形式

`w_set_value windowID resource_type value [resource_type value ...]`

(2) 説明

`w_set_value` マクロは、ウィンドウマクロで作成したウィンドウ部品のリソースを変更します。 指定したウィンドウ部品に存在しないリソースタイプを設定した場合、その設定は無効となります。

なお、値を設定可能なリソースの種類は、ウィンドウ部品によって異なります。各ウィンドウ部品の作成マクロの説明を参照してください。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

② *resource_type value [resource_type value ...]*

ウィンドウ部品でサポートしているリソースタイプ（ハイフン+英字 1 文字。-x、-y など）と、その値を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_get_value`

(5) 使用例

wsamp020.psv 参照（以下画面例）

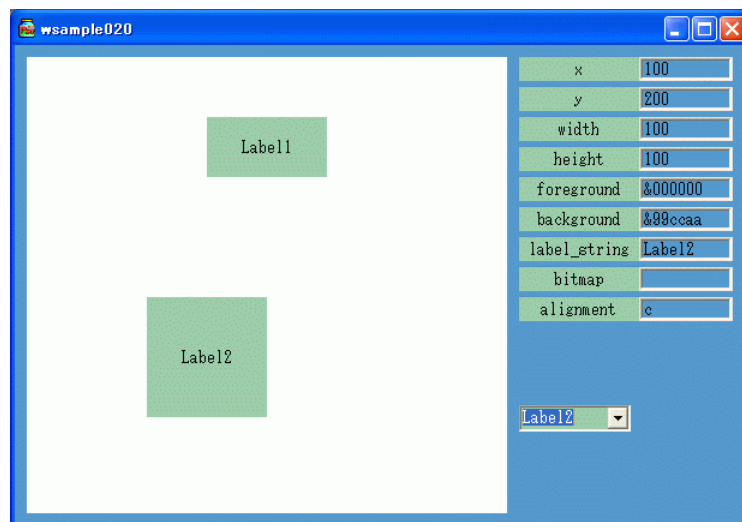


図 2-32 wsamp020.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.4.13 w_slider

スライダの作成

(1) 形式

w_slider tag parent [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-o] [-p] [-a] [-z] [-s]
[-c]

(2) 説明

w_slider マクロはスライダを作成します。

表 2-19 w_slider 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
parent	親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	スライダの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	スライダの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	スライダの幅を指定します。	○	○	○	—	20
-h height	スライダの高さを指定します。	○	○	○	—	200
-f color_val color_name	スライダの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	スライダの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-o h v	スライダの配置方向を指定します。 h : スライダを水平に配置します。 v : スライダを垂直に配置します。	○	—	○	—	v
-p pos	スライダの値を指定します。	○	○	○	—	0
-a range_min	スライダで設定可能な値の最小値を指定します。	○	○	○	—	0
-z range_max	スライダで設定可能な値の最大値を指定します。	○	○	○	—	100
-s on off	スライダのセンシティブを指定します。 on : 選択可能状態にします (既定値)。 off : 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-c macro_string	スライダを動かすか、アローボタンを押して、スライダの値が変化した時に、実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

(3) 戻り値

スライダのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_top

(5) 使用例

wsamp047.psv 参照 (以下画面例)



図 2-33 wsamp047.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.5 T~U で始まるコマンド

2.5.1 w_tag

ウィンドウ部品のタグ名取得／変更

(1) 形式

`w_tag windowID [tagName]`

(2) 説明

w_tag マクロは指定ウィンドウ部品のタグ名を取得／変更します。 引数にタグ名を指定しない時は現在のタグ名が取得されます。 指定する場合はタグ名が変更され、変更後のタグ名が返ります。

① *windowID*

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

② *tagName*

タグ名を文字列で指定します。

(3) 戻り値

タグ名

(4) 関連項目

w_button, w_canvas, w_cascade, w_check_box, w_combo_box, w_dialog, w_label, w_list_box, w_menu_bar, w_message_box, w_popup, w_popup_menu, w_pulldown_menu, w_radio_button, w_separator, w_slider, w_text_box, w_top

(5) 使用例

wsamp006.psv参照 (画面例は2.1.6の画面参照)

(6) 更新履歴

なし

2.5.2 w_text_box

テキストボックスの作成

(1) 形式

w_text_box *tag parent* [-x] [-y] [-w] [-h] [-f] [-b] [-t] [-v] [-j] [-m] [-l]
[-c] [-e] [-s] [-a] [-n] [-i] [-z]

(2) 説明

w_text_box マクロはテキストボックスを作成します。テキストボックスのスタイルにはシングルラインとマルチラインの2種類があります。マルチラインのテキストボックスでは、スクロールバーの有無を指定できます。

表 2-20 w_text_box 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
<i>tag</i>	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
<i>parent</i>	親ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログ、キャンバスが指定できます。	○	—	—	○	なし
-x coord	テキストボックスの左上の X 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	テキストボックスの左上の Y 座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	テキストボックスの幅を文字数（バイト数）で指定します。文字数が奇数で全角文字を表示した場合、全角文字を半分表示します。 例) "-w 5"と指定した場合 「□□X」※X は□が半分表示された状態	○	○	○	—	20
-h height	テキストボックスの高さを行数で指定します。	○	○	○	—	1
-f color_val color_name	テキストボックスの文字色を指定します。 color_val : RGB値 (例: R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例: red)	○	○	○	—	&000000
-b color_val color_name	テキストボックスの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例: R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例: red)	○	○	○	—	&ffffff
-t string	テキストボックスに初期表示する文字列を指定します。	○	—	—	—	なし
-v font_name	テキストボックスに表示する文字列のフォント名を指定します。	○	○	○	—	m7

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-j hv	テキストボックスにスクロールバーを付加します。水平、垂直のいずれか一方を付けることも、水平、垂直の両方を付けることもできます。 マルチラインのテキストボックスにだけ有効です。 h: 水平スクロールバーを付加します。 v: 垂直スクロールバーを付加します。	○	—	○	—	なし
-m s m	テキストボックスのスタイルを指定します。 s: シングルラインのテキストボックスを作成します。 m: マルチラインのテキストボックスを作成します。	○	—	○	—	s
-l max_len	テキストボックスの最大文字数（バイト数）を指定します。	○	○	○	—	8192
-c macro_string	テキストボックスにエンターキーを入力した時に実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし
-e macro_string	テキストボックスに 1 文字のキー入力が 1 回あるたびに 1 回ずつ呼ばれるイベントです。後述の変数を利用することで、入力値修正などの加工が可能です。 次の 2 種類の変数が使用できます。 変数 psv_text(flag) は、入力した文字をテキストボックスに反映するかを制御するフラグです。 入力文字を反映せず、元の内容をそのまま残す場合は、値を off にします。 変数 psv_text(str) には、入力した文字をセットしています。 入力した文字を変更する場合は、psv_text(str) に文字をセットします。 セットした文字は入力した文字数分だけ反映します。 変換される文字が 1 バイト文字で変換する文字が 1 バイト文字の場合、変換する文字に変換します。 変換される文字が 2 バイト文字で変換する文字が 1 バイト文字の場合、変換する文字で 2 文字分変換します。 変換される文字が 2 バイト文字で変換する文字が 2 バイト文字の場合、変換する文字に変換します。 変換される文字が 1 バイト文字で変換する文字が 2 バイト文字の場合、正しく変換されません。	○	○	○	—	なし

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-s on off [設定 変更 参照]	テキストボックスのセンシティブを指定します。 on: 選択可能状態にします (既定値)。 off: 選択不可状態にします。	○	○	○	—	on
-a macro_string	テキストボックスにフォーカスをセットした時に実行するマクロを指定します。					なし
-n r w	テキストボックスの入力モードを指定します。 r: 表示のみ可能です。文字は入力できません。 w: 文字の表示、入力とも可能です (既定値)。					w
-i on off	テキストボックスにフォーカスをセットした時に仮名漢字変換モードを自動的にオンにするかを指定します。 on: 強制的に仮名漢字変換モードをオンにします。 off: 特に操作は行いません。					off
-z l c r	テキスト文字列の揃え位置を指定します。 l: ラベル文字列を左揃えで表示します (既定値)。 c: ラベル文字列を中心揃えで表示します。 r: ラベル文字列を右揃えで表示します。	○	—	—	—	l

(3) 戻り値

テキストボックスのウィンドウ ID

(4) 関連項目

w_canvas, w_dialog, w_text_clr_select, w_text_ins_pos, w_text_replace, w_text_select, w_text_fence, w_text_str, w_top

(5) 使用例

wsamp049.psv 参照 (以下画面例)

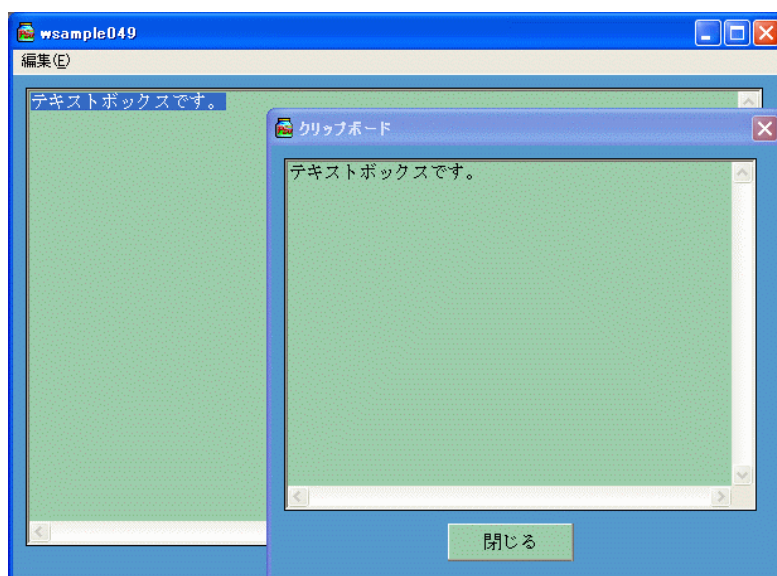


図 2-34 wsamp049.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

フォーカスセット時に実行するマクロが指定可能になりました (-a)。

入力モードの指定 (-n) が可能になりました。

仮名漢字変換モード (ON/OFF) の設定が可能になりました (-i)。

② Ver. 5.2

テキストの揃え位置が指定可能になりました (-z)。

2.5.3 w_text_clr_select

テキストボックス内の反転表示解除

(1) **形式**

w_text_clr_select *windowID*

(2) **説明**

w_text_clr_select マクロは、指定テキストボックス内の反転表示を解除します。

① *windowID*

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

w_text_box, w_text_ins_pos, w_text_replace, w_text_select, w_text_str

(5) **使用例**

wsamp049.psv参照 (画面例は2.5.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.5.4 w_text_fence

テキストボックスの仮名漢字変換モードの設定

(1) 形式

w_text_fence on|off *windowID* [*windowID* ...]

(2) 説明

w_text_fence マクロは、テキストボックスの仮名漢字変換モードの ON/OFF を設定します。

① on|off

on : テキストボックスの仮名漢字変換モードをオンに設定します。

off : テキストボックスの仮名漢字変換モードをオフに設定します。

② *windowID* [*windowID* ...]

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

※ PreSerV ではテキストボックス単位で IME 制御を行わないため、1つのテキストボックスに対する仮名漢字変換モード ON は他のテキストボックスにも適用します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_text_box, w_text_clr_select, w_text_ins_pos, w_text_replace,
w_text_select

(5) 使用例

wsamp061.psv 参照 (以下画面例)

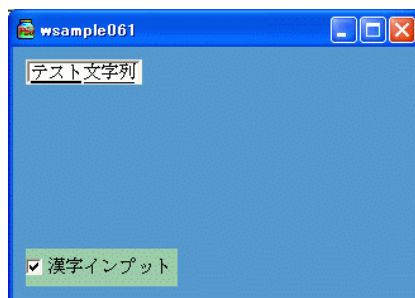


図 2-35 wsamp061.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

Ver. 3.0 で新規に追加したマクロです。

2.5.5 w_text_ins_pos

テキストボックス内のカーソル位置取得／設定

(1) **形式**

w_text_ins_pos *windowID* [*pos*]

(2) **説明**

w_text_ins_pos マクロは、テキストボックス内の現在のテキストカーソルの位置を取得します。

また、引数に位置を指定した場合、指定位置にテキストカーソルを設定します。カーソル位置は、文字列の先頭を 0 として、文字数（漢字も英数字と同様に 1 文字とする）で計算します。

また、テキストボックスがマルチラインの場合、改行も 1 文字として計算します。カーソル位置は、対象となるテキストボックス内の文字列の範囲内で設定できません。

① *windowID*

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *pos*

テキストカーソルを表示する位置を指定します。

(3) **戻り値**

現在のテキストカーソル位置

(4) **関連項目**

w_text_box, w_text_clr_select, w_text_replace, w_text_select, w_text_str

(5) **使用例**

wsamp049.psv参照 (画面例は2.5.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.5.6 w_text_replace

テキストボックス内の文字列置換

(1) **形式**

`w_text_replace windowID from_pos to_pos string`

(2) **説明**

w_text_replace マクロは、テキストボックス内の指定範囲の文字列を、指定文字列に置き換えます。

また、置き換え後の文字列を空指定 ("") すると、指定範囲に該当する文字列をクリアできます。

範囲の開始位置、終了位置は、文字列の先頭を 0 として文字数（漢字も英数字と同様に 1 文字とする）で計算します。 テキストボックスがマルチラインの場合、改行も 1 文字として計算します。

① *windowID*

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *from_pos*

置換する範囲の開始位置を指定します。

③ *to_pos*

置換する範囲の終了位置を指定します。

④ *string*

置換後の文字列を指定します。

(3) **戻り値**

なし

(4) **関連項目**

w_text_box, w_text_clr_select, w_text_ins_pos, w_text_select, w_text_str

(5) **使用例**

wsamp049.psv参照 (画面例は2.5.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.5.7 w_text_select

テキストボックス内の文字列反転表示

(1) **形式**

`w_text_select windowID [from_pos to_pos]`

(2) **説明**

`w_text_select` マクロは、テキストボックス内の指定範囲の文字列を反転表示します。

また、範囲の指定を省略すると、現在反転表示されている文字列を取得できます。範囲の開始位置、終了位置は、文字列の先頭を 0 として、文字数（漢字も英数字と同様に 1 文字とする）で計算します。テキストボックスがマルチラインモードの場合、改行も 1 文字として計算します。

開始位置、終了位置の一方だけを省略することはできません。

テキストボックスでは、同時に複数箇所の反転表示は行えないため、本マクロを複数回実行した場合、一番最後の設定が有効となります。文字数以上の数値を指定するとカーソルは文字列の最終文字の後に移動します。

① *windowID*

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *from_pos*

反転表示する範囲の開始位置を指定します。

③ *to_pos*

反転表示する範囲の終了位置を指定します。

(3) **戻り値**

現在の反転表示中の文字列

(4) **関連項目**

`w_text_box`, `w_text_clr_select`, `w_text_ins_pos`, `w_text_replace`, `w_text_str`

(5) **使用例**

wsamp049.psv 参照 (画面例は 2.5.2 の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.5.8 w_text_str

テキストボックス内の文字列取得／設定

(1) **形式**

w_text_str *windowID* [*string*]

(2) **説明**

w_text_str マクロは、テキストボックスの表示内容を取得します。

また引数に文字列を設定すると、指定文字列をテキストボックスに設定できます。

引数に指定する文字列を空指定 ("") すると、テキストボックスの表示内容をクリアできます。

① *windowID*

テキストボックスのウィンドウ ID を指定します。

② *string*

設定する文字列を指定します。

(3) **戻り値**

テキストボックスの表示内容

(4) **関連項目**

w_text_box, w_text_clr_select, w_text_ins_pos, w_text_replace,
w_text_select

(5) **使用例**

wsamp049.psv参照 (画面例は2.5.2の画面参照)

(6) **更新履歴**

なし

2.5.9 w_tooltip_color

ツールチップテキストの表示色設定

(1) 形式

```
w_tooltip_color targetWindowID text_color_val| text_color_name  
back_color_val| back_color_name
```

(2) 説明

w_tooltip_color マクロは、ツールチップのテキスト描画色と、背景色を RGB 値で指定します。

描画色設定は、w_tooltip_init を行ったベースウィンドウ単位で適用されます。w_tooltip_color を実行する前に必ず w_tooltip_init と、w_tooltip_set を実行し、targetWindowID で指定されるウィンドウに対してツールチップの設定を行ってください。

① targetWindowID

ツールチップテキストを設定してある対象ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。

② text_color_val| text_color_name

ツールチップテキストを表示するウィンドウのテキスト描画色を指定します。

text_color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a)

text_color_name : カラー名称 (例 : red)

③ back_color_val| back_color_name

ツールチップテキストを表示するウィンドウの背景色を指定します。

back_color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a)

back_color_name : カラー名称 (例 : red)

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_top, w_dialog, w_tooltip_init, w_tooltip_set, w_tooltip_enable

(5) 使用例

wsamp101.psv 参照 (以下画面例)



図 2-36 wsamp101.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 5.0

w_tooltip_color マクロを追加しました。

2.5.10 w_tooltip_enable

ツールチップテキストの使用設定

(1) 形式

`w_tooltip_enable targetWindowID activeFlag`

(2) 説明

`w_tooltip_enable` マクロは、一時的にツールチップの使用を停止したい場合に、ツールチップを使用不可と設定したり、使用可能に設定を戻す時に使用するマクロです。

設定の適用範囲は、`w_tooltip_init` を行ったベースウィンドウ単位で適用されます。

`w_tooltip_enable` を実行する前に必ず `w_tooltip_init` と、`w_tooltip_set` を実行し、`targetWindowID` で指定されるウィンドウに対してツールチップの設定を行ってください。

① `targetWindowID`

ツールチップテキストを設定してある対象ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。[設定]

② `activeFlag`

ツールチップの使用状態を指定します。

0: の時は非アクティブとしてツールチップの使用を一時停止します。

1: の時はアクティブとしてツールチップの使用を再開します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_top`, `w_dialog`, `w_tooltip_init`, `w_tooltip_set`, `w_tooltip_color`

(5) 使用例

`wsamp101.psv` 参照 (画面例は 2.5.9 の画面参照)

(6) 更新履歴

① Ver. 5.0

`w_tooltip_enable` マクロを追加しました。

2.5.11 w_tooltip_init

ツールチップの初期化

(1) 形式

w_tooltip_init *baseWindowID*

(2) 説明

w_tooltip_init は w_tooltip_set を実行する前のツールチップの初期化処理を行います。

w_tooltip_set でウィンドウ部品にツールチップテキストを設定する場合は、事前に対象ウィンドウ部品の親ウィンドウを指定して、必ず w_tooltip_init を実行して置いてください。

① *baseWindowID*

ツールチップのベースウィンドウとなるとするウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。 トップウィンドウ、ダイアログが指定できます。

ツールチップのベースウィンドウは、ツールチップを設定するウィンドウ部品の親ウィンドウを必ず指定してください。[設定]

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

w_top, w_dialog, w_tooltip_set, w_tooltip_color, w_tooltip_enable

(5) 使用例

wsamp101.psv参照 (画面例は2.5.9の画面参照)

(6) 更新履歴

① Ver. 5.0

w_tooltip_set マクロを追加しました。

2.5.12 w_tooltip_set

ツールチップテキストの設定

(1) 形式

`w_tooltip_set targetWindowID toolTipText`

(2) 説明

`w_tooltip_set` は 以下に示すウィンドウ部品に対して、簡易ヘルプとして使用できる、ツールチップテキストを設定します。

- アームボタン (`w_arm_button` で作成したウィンドウ部品)
- ボタン (`w_button` で作成したウィンドウ部品)
- チェックボックス (`w_check_box` で作成したウィンドウ部品)
- リストボックス (`w_list_box` で作成したウィンドウ部品)
- ラジオボタン (`w_radio_button` で作成したウィンドウ部品)
- スライダー (`w_slider` で作成したウィンドウ部品)
- テキストボックス (`w_text_box` で作成したウィンドウ部品)

ツールチップテキストは、ウィンドウ上でマウス移動を検知し、一定時間以上そのウィンドウ上でマウスの移動が無かった場合にテキストを表示します。

また、`w_tooltip_set` を実行する前に必ず `w_tooltip_init` を実行し、ツールチップの初期化を行ってください。

① *targetWindowID*

ツールチップテキストを設定する対象ウィンドウのウィンドウ ID を指定します。指定可能なウィンドウ ID は以下の W マクロ命令で生成したウィンドウだけです。

`w_arm_button`・`w_button`・`w_check_box`・`w_list_box`・`w_radio_button`・`w_slider`・`w_text_box`

② *toolTipText*

ツールチップテキストを指定します。ツールチップテキストは 1024 文字以内に設定してください。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_top`, `w_dialog`, `w_tooltip_init`, `w_tooltip_color`, `w_tooltip_enable`

(5) 使用例

`wsamp101.psv`参照 (画面例は2.5.9の画面参照)

(6) 更新履歴

① Ver. 5.0

`w_tooltip_set` マクロを追加しました。

2.5.13 w_top

トップウィンドウの作成

(1) 形式

w_top tag [-x] [-y] [-w] [-h] [-t] [-b] [-m] [-d] [-e] [-z] [-a]

(2) 説明

w_top マクロはトップウィンドウを作成します。トップウィンドウはプロセス内で複数作成できます。

表 2-21 w_top 引数説明

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
tag	タグ文字列を指定します。	○	—	—	○	なし
-x coord	トップウィンドウの左上のX座標を指定します。	○	○	○	—	0
-y coord	トップウィンドウの左上のY座標を指定します。	○	○	○	—	0
-w width	トップウィンドウの幅を指定します。	○	○	○	—	640
-h height	トップウィンドウの高さを指定します。	○	○	○	—	480
-t title_string	トップウィンドウのタイトル文字列を指定します。	○	○	○	—	top
-b color_val color_name	トップウィンドウの背景色を指定します。 color_val : RGB値 (例 : R=255, G=0, B=10 → &ff000a) color_name : カラー名称 (例 : red)	○	○	○	—	&ffffff
-m on off icon	トップウィンドウの作成時のモードを指定します。 on : 画面に表示します。 off : 画面に表示しません。表示するには w_map マクロを使用します。 icon : アイコン表示します。	○	—	—	—	on
-d macro_string	トップウィンドウの左上のウィンドウ制御メニュー内から、close (終了) を選択した時に 実行するマクロを指定します。	○	○	○	—	なし

2 章ウィンドウマクロ(W マクロ)

パラメータ名	説明	設定	変更	参照	必須	デフォルト値
-e macro_string	<p>トップウィンドウの画面サイズを変更した時に実行するマクロを指定します。</p> <p>次の3種類の変数が使用できます。</p> <p>変数 psv_size(w) と psv_size(h) は、サイズ変更後のウィンドウの幅と高さをセットしています。</p> <p>変数 psv_size(type) は、サイズ変更のタイプにより次の文字列をセットしています。</p> <p>maximized : ウィンドウが最大化された。</p> <p>minimized : ウィンドウが最小化された。</p> <p>restored : ウィンドウがサイズ変更されたが、最大化と最小化のどちらでもない</p>	○	○	○	—	なし
-z styleVal	<p>トップウィンドウのスタイルを次の8ビットの整数で指定します。</p> <p>1. サイズ変更境界線 (ビット0)</p> <p>サイズ変更境界線を持つウィンドウとするかどうかを指定します。</p> <p>0 : サイズ変更境界線を持たない</p> <p>1 : サイズ変更境界線を持つ</p> <p>2. 最小化ボタン (ビット1)</p> <p>最小化ボタンを持つウィンドウとするかどうかを指定します。</p> <p>0 : 最小化ボタンを持たない</p> <p>1 : 最小化ボタンを持つ</p> <p>3. 最大化ボタン (ビット2)</p> <p>最大化ボタンを持つウィンドウとするかどうかを指定します。</p> <p>0 : 最大化ボタンを持たない</p> <p>1 : 最大化ボタンを持つ</p>	○	○	○	—	7
-a on	<p>トップウィンドウを Internet Explorer 上の WebTcl ウィンドウにアタッチします。</p> <p>注) InitSource で指定するマクロでウィンドウ統合する際は、w_top 作成前に、若干のウェイトを追加してください (“e_sleep 500”程度)。</p>	○	—	—	—	off

(3) 戻り値

トップウィンドウのウィンドウ ID

(4) 関連項目

なし

(5) 使用例

wsamp055.psv 参照 (以下画面例)

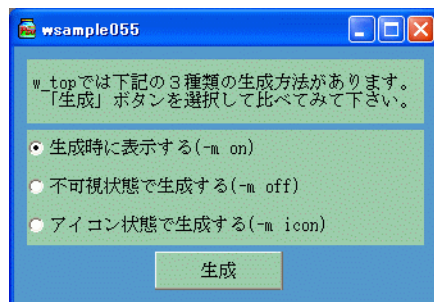


図 2-37 wsamp055.psv 実行画面

(6) 更新履歴

① Ver. 3.0

トップウィンドウのクローズ時に実行するマクロの指定を追加しました (-d)。

トップウィンドウの画面サイズ変更時に実行するマクロの指定を追加しました (-e)。

トップウィンドウのスタイルを設定するマクロの指定を追加しました (-z)。

② WebTcl

Internet Explorer 上のウィンドウに統合するオプションの指定を追加しました (-a)。

2.5.14 w_trans_coords

ウィンドウ相対座標を絶対座標に変換

(1) 形式

w_trans_coords *windowID* *x* *y*

(2) 説明

w_trans_coords マクロは、ウィンドウ相対座標を絶対座標に変換します。

① *windowID*

相対座標の基準となるキャンバスのウィンドウ ID を指定します。

② *x*

相対座標の X 座標を指定します。

③ *y*

相対座標の Y 座標を指定します。

(3) 戻り値

絶対座標 X 絶対座標 Y (リスト形式)

(4) 関連項目

w_canvas, w_pop_up

(5) 使用例

wsamp056.psv 参照 (以下画面例)

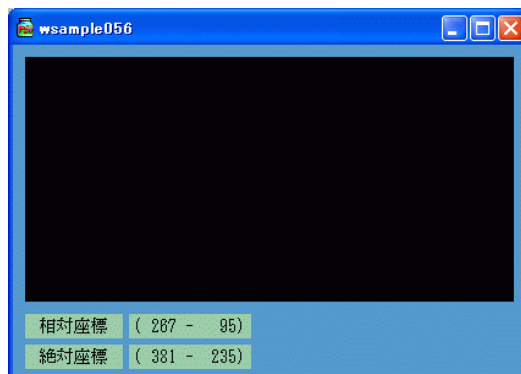


図 2-38 wsamp056.psv 実行画面

(6) 更新履歴

なし

2.5.15 w_unmap

ウィンドウ部品の不可視化

(1) 形式

`w_unmap windowID [windowID ...]`

(2) 説明

`w_unmap` マクロは、ウィンドウマクロで生成したウィンドウ部品の不可視状態にします。

親ウィンドウを不可視化すると、そのすべての子ウィンドウも不可視化されます。

① `windowID [windowID ...]`

ウィンドウ部品のウィンドウ ID を指定します。

(3) 戻り値

なし

(4) 関連項目

`w_map`

(5) 使用例

`wsamp031.psv` 参照 (以下画面例)

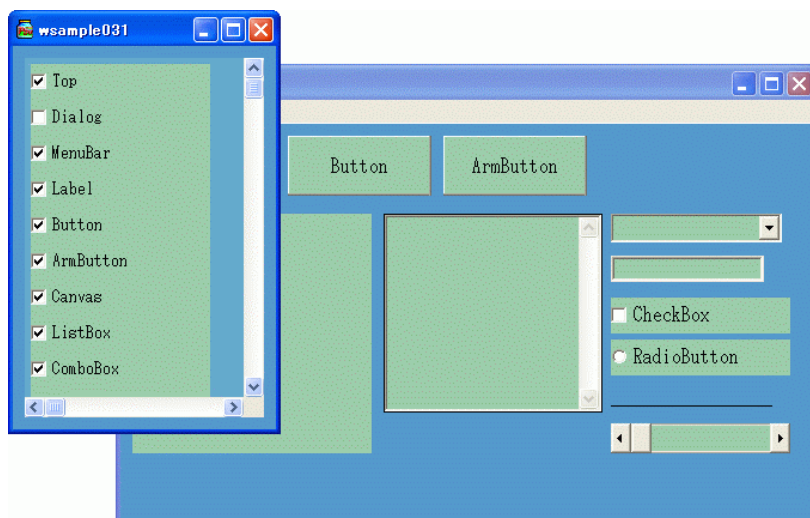


図 2-39 `wsamp031.psv` 実行画面

(6) 更新履歴

なし